

小学校セカンドスクール



第一小学校

10月1日～10月7日(6泊7日)

○日程表

10月 1日 (金)		10月 2日 (土)		10月 3日 (日)	
7:30	学校集合	6:30	起床 清掃	6:30	起床、検温、洗顔
	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食、
8:00	出発				
		9:00	福山森林体験の森 着	9:30	鮭一括採捕場見学
12:00	守門着・昼食 (星の家)		林業体験①		やな見学
13:00	開校式 (駐車場)		炭焼き・薪割り		鮭仕分け見学
14:00	名水めぐり		雪室見学	10:30	川の学習
15:30	目黒邸見学	11:30	昼食	11:30	郷土食体験
16:00	昔話を聞く会	12:30	林業体験②	12:00	昼食
17:00	健康観察・入浴		伐採体験	13:30	課題別学習①
18:00	夕食	16:15	班長会議 (スキー場)		
19:00	宿の方との交流会	17:00	健康観察・入浴	16:30	健康観察・入浴
20:00	語らいの時間	18:00	夕食	17:30	夕食
	一日の振り返り	19:00	手紙書き	19:00	天体観測 (星の家着)
21:00	しおり、健康調査票提出	20:00	語らいの時間	20:30	一日のふりかえり
21:30	消灯・就寝		一日の振り返り	21:30	消灯・就寝
		21:30	消灯・就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

けやきの時間 (総合的な学習の時間) を使って、セカンドスクールの目標や集団生活における注意点、係活動についての話し合い、各体験活動における調べ学習を行った。

(i) セカンドスクールへ向けてのガイダンス

目標の設定とルール決め、必要な係活動の話し合いを行い、児童の自主的な活動を促すようにした。学習活動では武蔵野市と魚沼市の違いに注目できるような課題設定を行った。

(ii) 課題別学習

学習テーマから調べたい課題を選択し、3分野6つのグループに分かれて課題別学習を進めるようにした。自然環境、社会環境、文化環境の課題別グループに分かれ、書籍やインターネットなどで情報を収集した。

(iii) 水質調査・土壌調査

多摩川の水質調査や学校の田や畑の土壌調査を行い、現地での調査とデータを比較して、環境の違いを見られるようにした。

(iv) イネの栽培

魚沼市須原小学校からいただいた稲の苗を学校の一坪田んぼに植え、また他の品種でバケツ稲にも挑戦し、専門の先生にお話を伺ったり本で調べたりして育てた。

新潟県魚沼市守門

参加人数 男子25名 女子23名
計48名

10月4日(月)		10月5日(火)		10月6日(水)		10月7日(木)	
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:00	須原小学校訪問 交流会	9:00	カントリーウォーク	9:00	課題別学習②	8:00	荷物整理・大掃除
10:30	農業体験① 稲刈り、はざ掛け	12:00	追分けのブナ林 着 スキー場頂上着	12:00	もちつき(各宿)	10:30	閉校式
13:00	昼食 教員交代の会	13:00	昼食(弁当) 班長会議	13:30	宿別体験 セカンドスクールのまとめ(お別れ会の準備)	11:00	守門発 12:00 昼食 (赤城高原SA)
14:00	農業体験② 脱穀、もみすり、精米	15:00	農業体験③ わら細工作り	17:00	健康観察・入浴	15:30	学校到着 帰校式
17:00	健康観察・入浴	17:00	健康観察・入浴	17:00	夕食・宿の方と交流会	16:00	解散
18:00	夕食 (天体観測予備日) (洗濯)	18:00	夕食 後片付け (天体観測予備日) (洗濯)、手紙書き	18:00	夕食・宿の方と交流会		
20:00	語らいの時間 一日の振り返り	20:00	語らいの時間 一日の振り返り	20:00	一日のふりかえり		
21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝		

② 事後の学習内容

- ・課題別学習で取り組んだ内容とその様子や7日間の活動から印象に残ったものを、写真や資料を使いながら、ひとり一人まとめた。それを「セカンドスクール発表会」として、民宿の方、保護者らへ発表をした。
- ・新潟からお世話になった民宿の方を招いて、自分たちで刈り取り、脱穀、精米した米の収穫の過程を振り返ると共に、一緒におにぎりを食べ、お世話になった民宿の方への感謝の気持ちを表すパーティを開いた。
- ・おいしい米ができる条件について、水・土・気候に焦点をしばって調べ、まとめた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、林業体験

炭だし、薪割り、木の伐採の3つの体験をした。炭だしでは、暑さとたたかいながらも1本1本丁寧に炭づくりをしていた。薪割りでは、機械を使った方法と、自力で行う方法の両方を体験し、それぞれの良さ大変さを体験した。午後の木の伐採では、森の中に入り、示された

木を友達と協力しながら、切り倒して行った。倒した木を運びやすい長さに切る作業も、子どもたちは熱心に行った。

2、星空観察

天候が悪く、実際の星空を観察することができなかったが、3人の講師の方が、PCでの動画映像で星空の説明をし、その後、大きな天体望遠鏡を見せてもらったり、様々な星についての話をしてもらった。それらの話を受け、子どもたちからもたくさんの質問が飛び出し、天体についての学習を深めることができた。

3、稲刈り体験

地元小学校との交流が実現でき、一緒に稲刈り体験をすることができた。生憎の雨模様だったが、かまを使っての稲刈りや刈り取った稲を束ねる作業を行った。刈っても刈っても終わりの見えない広さがあったが、子どもたちは弱音を吐くことなく、黙々と作業を進めていた。



【須原小の人たちとの稲刈り】

4、カントリーウォーク

ハイキングには、ガイドを3名依頼した。ハイキングの見所や野外活動の注意点（蜂や熊に出会ったときの対処法や準備運動）を事前に指導してもらい、大変役に立った。ハイキング中も動物の糞、植物の種類や根の様子、水辺に生きる小動物、岩を裂くような木々のパワーなどについて詳細な解説を受け2時間30分「自然観察」をじっくり行うことができた。詳細に自然観察することができたのは大変有効であった。

<学習体験活動>

1、名水めぐり

民宿近辺の地理を知るためのねらいも含め、地図を見ながら、班ごとにポイントを探して、名水巡りをした。今年は、各ポイントで水質調査も行い、おいしい水を味わった。

2、課題別学習

自然環境班、社会環境班、文化環境班に分かれ、各自が立てた課題を達成できるよう取り組んだ。自然環境班では、川でつりをしたり水中生物の観察をしたりした。山では栗やザクロ等食べられる木の実について講師の先生に教えて頂いた。社会環境班では、東京との生活の違いを調べ、雪国ならではの生活の工夫を知ることができた。文化環境班では、地元の方に話を聞き、方言や昔話、郷土食等について調べることができた。子どもたちひとり一人が課題を設定したので、意欲的に活動できた。

3、川の学習

大きく2つの学習を行った。1つは水質検査。東京多摩川の水質を事前に調べていたので、新潟魚野川がどうなっているか興味深く調べることができた。

2つ目は、理科のいのちのたんじょうの学習である。サケの採捕場を訪ね、魚野川にあがったサケを見せてもらったり、卵、受精の様子などを説明してもらった。子どもたちは間近でみるその姿に、「命」をしっかりと感じていた。

<生活体験活動>

1、郷土食体験

各民宿に分かれて、地元でとれる「くるみ」入りの五目ご飯作りを行った。短い時間での準備だったので、全行程を子どもたちが行うことはできなかったが、「くるみ」を割る作業を教えてもらい、子どもたちは熱心に取り組んだ。自分で食すものを作るというのは、作業に真剣さを生むとともに、「食す」までの大変さをも実感することができた。協力してものを作る大切さが学ぶとともに、地域の人や特色ある食事に触れる機会となった。

2、わら細工作り

各民宿に分かれて、民宿の方を講師として、鍋敷きを作った。最初はうまくいわずに投げ出し寸前の子もいたが、徐々に作業の手順がわかり、その後は夢中でわらを編んでいる姿が見られた。

「いね」という作物が、食べるための物だけではなく、無駄になる所なく生活品にもなっていくことが子どもたちにもわかった。「いね」が新潟の人々の暮らしの中に、いかに根付いているのか活動を通して気づくことができた。

3、もちつき体験

各民宿に分かれて、民宿の方といっしょにもちつきをした。杵の持ち方やつき方を教わり、地域の方と交わってみんなで楽しく活動した。ついたもちは、各宿ごとに、雑煮にしたりあべかわにしたりして、おいしくいただいた。

<地域の人々とのふれあい活動>

1、昔話を聞く会

目黒邸を訪ね、家の造りや道具を見学して新潟の昔の生活について想像をふくらませることができた。畳敷きの大きな居間に、地元の語り部の方をお招きし、新潟に伝わる昔話を聞かせてもらった。温かい語り口に子どもたちも落ち着いて聞き入った。



【スキー場から見た魚沼のまち】

2、須原小学校との交流

事前にビデオレター交流を行い、実際に会うのを楽しみにしていた。当日は、須原小学校の

5年生が出迎えてくれ、体育館でゲームをしたりダンスを踊ったりして楽しい時間を過ごした。また一緒に稲刈りをし、鎌の使い方や稲の束ね方等を教えてもらった。昼食も、須原小と一小の子どもたちが混ざったグループでおにぎり作りを行い、様々な子ども同士の交流ができた。

○児童の感想

- ・一週間、みんなで泊まるのは不安だったけど、いろんなことを一緒にできてすごく楽しかったです。
- ・東京ではできない事をいろいろできたし、長い間、友達と過ごす事ができて楽しかったです。
- ・カントリーウオークで、いろいろな生き物を見つけられてうれしかったです。
- ・課題別体験で、石を拾って観察したり、川に落ちて靴がびしょぬれになって裸足で歩いたり、いい経験ができました。
- ・けんかもたくさんしたけど、仲直りの仕方も分かって、最後は仲良くできたので嬉しかったです。

○保護者の感想

- ・民宿の方を招いての、おにぎりパーティでは、子どもたちが自分たちで準備から片付けまでを行い、自主性が育ったことを実感しました。
- ・セカンドスクールの発表、緊張しながらも自分の調べたことを一生懸命発表する姿は素敵でした。セカンドスクールでたくさん体験してきて良い経験だったんだなあと改めて感じました。
- ・セカンドスクール交流会では、宿の方と子どものかかわる様子から、7日間のセカンドでの姿を想像でき、とてもほほえましかったです。貴重な機会を与えて下さってありがとうございました。

○総合的な学習の時間との関連について

ガイダンスで、「宿泊行事を進めるに上で大切なこと」を投げかけ、児童自らが課題を設定し、学習の進め方などを考えさせるようにした。

特に、「宿泊による生活時間を活用し、生活上の自立に必要な知識・技能や生活習慣を身につけるとともに、一人一人の子どもの創意を喚起し、情操を養い、個性の伸長を図る」というねらいを重視し、「協力」の重要性を強調した。その結果、係活動における責任感や班活動における協力の意識、児童の一人ひとりの判断力が高まった。課題別学習においても、見通しをもって取り組むことができ、調べた内容を詳細にまとめ、発表することができた。また、事前学習における情報収集や発表の活動を通して、パソコンに接する機会を作ることができ、情報機器の操作や活用の仕方に触れることができた。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

宿泊行事を体験していることで、どのようなことに気をつけて生活を送ればよいか、どのように事前学習を進めて行けばよいかがおおよそ分かっていたので、安心して学習や係準備ができた。また、過去の経験があるので、新しいことに挑戦する時間が確保できた。

保護者の意識にも、2回目の宿泊なので、比較的安心して子どもたちを送り出すことができたようだった。

○次年度に向けての反省・課題

- ・米づくりを支える気候や水、里山散策での栗拾いや生物観察、畑での収穫体験などの活動を通して、自然の恩恵によって、私たちの生活が成り立っているということや自然の仕組みや人との関係の在り方を考えることができた。自然を大切にするということは、自分たちの日常生活にも大きく関連することを理解することができた。
- ・「時間を守る」「あいさつをする」「健康に生活する」などの学年目標を設定し、一日の活動の始まりに振り返らせていったことで、自分たちの生活の様子に考えを深めることができ、活動の先々の事を見通して活動する姿が見られるようになった。
- ・わき水や川の水の水質（汚染度やPH）、田んぼの土質（PH）、季節ごとの平均気温などの調査活動を行い、武蔵野市と比較をしたことで、自然環境の違いについて客観的なデータにもとづいて考察できた。その結果、魚沼は稲作に適した土地柄であるということがわかった。
- ・武蔵野市が行った宿泊学習の事前・事後のアンケート調査の結果を見ると、「自分の意見を言えるようになった」の項目で顕著な変化が見られた。6泊7日という長期宿泊学習によって、子ども個々の素直な姿が現れ、そこから「仲間たちとよりよく生活していこう」というより高い目標に向かって活動する子どもの姿が見られるようになった。また、教師も、係活動など役割に対する責任や対人関係に対する不安など、子どもが自分自身を深く見つめ直す場面に出会うことができ、児童の内面の理解に役立てることができた。
- ・学ばせたいことや体験させたいことがたくさんあり、時間に追われてしまう場面があった。子どもたちがじっくりと活動できるように、次年度に向け、内容や日程の工夫が必要である。
- ・各自が選択した課題についての事前学習に重きをおき、「課題別学習」の事前調査を中心に行っていたため、林業体験などについて深く理解せず、現地での学習活動が浅くなってしまった。子どもに課題を選択させていく内容と、全員が共通して調べていく内容を整理して、計画を立てる必要がある。

第二小学校

9月26日～10月3日(7泊8日)

〇日程表

9月26日(日)	9月27日(月)	9月28日(火)	9月29日(水)
7:00 武蔵境駅集合	6:30 起床・検温・健康観察	6:30 起床・検温・健康観察	6:30 起床・検温・健康観察
7:10 出発式	清掃・出発準備	清掃・出発準備	7:00 清掃・出発準備
7:38 武蔵境駅発	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食
東京駅着	8:30 地域探索		8:30 今までの学習をまとめよう
9:28 東京駅発		9:00 めんめん館着	
10:40 越後湯沢駅着	9:30 そばを打とう	9:10 朝会・講師紹介	10:00 まござ横山林着
10:48 越後湯沢駅発		9:20 峠の一本杉をめざして	朝会・講師紹介
車中昼食	11:00 昼食	12:00 峠の一本杉着	森林を守る仕事を知ろう
12:57 高岡駅着		12:15 ブナの原生林・昼食	
13:10 高岡駅発	13:00 稲刈りをしよう		13:00 昼食
休憩		13:00 原生林を歩こう	国際キャンプ場到着
15:00 行政センター着	15:30 水田発	15:00 坂上の大杉見学	13:45 生命の大切さを知ろう
15:10 開校式		15:30 そばの郷着	(岩魚づかみから)
16:00 各民宿到着	16:00 各民宿着	お礼の会	15:45 お礼の会
17:00 自己紹介の会	18:00 検温・入浴	16:00 各民宿着	16:30 各民宿着
自分の箸を作ろう	夕食	17:00 検温・入浴	17:00 検温・入浴
18:00 検温・入浴	20:00 利賀の話を聞こう	18:00 夕食	18:00 夕食
夕食		20:00 お家の人に手紙を書こう	20:00 利賀の話を聞こう
20:00 学習のまとめ	21:00 学習のまとめ	21:00 学習のまとめ	21:00 学習のまとめ
健康観察	健康観察	健康観察	健康観察
21:30 就寝	21:30 就寝	21:30 就寝	21:30 就寝

〇セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習の内容

「利賀の森は地球を守る」(教科横断型総合単元的学習としての特別プログラム)

セカンドスクールで出会うであろう様々な疑問や問題を想定し、セカンドスクールが自己解決(ファーストスクールの補完)の場や新たな学習への興味・関心や意欲を高められたりする場になるように、4月当初から教科横断型総合単元プログラムを作成し、事前に学習をした。

- ・校庭の樹木観察(自然への興味関心意欲の高揚・自然観察の基礎学習)
- ・雑木林や里山観察(自然に近い人工林の様子・人工林の役割と維持管理)
- ・日本の森林(形相・環境) ・森林と日本人との歴史的なかかわり(暮らしと環境)
- ・森林のはたらき(産業・動物の住処・空気浄化・貯水・土砂災害防止・暴風防砂・憩い)
- ・林業(5年社会科の林業の発展補充的内容) ・環境問題と環境保護活動(日本の絶滅種を含めた広範な環境問題・地域活動からナショナルトラストまで)
- ・自由研究の在り方(様々な例やそのまとめ方の学習・夏休みに実践)

② 事後の学習の内容

3学期はセカンドスクールを起点としての問題解決学習単元の詳細を練っている段階である。

- ・各自のメインテーマ発表(国語の「人と「もの」との付き合い方」と単元合併、セカンドスクールの成果)
- ・セカンドスクール新聞作り(総合)と親子で語るセカンドの会(学活)
- ・学習発表会「セカンドスクール2010/利賀の森は地球を守る」(台本・演出・効果等全て児童)

富山県南砺市利賀村

参加人数 男子44名 女子49名
計93名

9月30日(木)		10月1日(金)		10月2日(土)		10月3日(日)	
6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:00	起床・検温・健康観察 清掃・荷物準備
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	6:50	朝食 出発準備 閉室式
9:00	利賀小学校 アーパスホール着	9:00	利賀小学校着 利賀小と交流会をしよう	9:00	そばの郷着 相倉合掌造り集落着	8:30	そばの郷着 閉校式
9:10	課題別に活動しよう	9:10	自己紹介・校内見学 麦屋節をおどろう キンボール大会	10:00	相倉集落を見学しよう 民俗資料館見学 相倉合掌集落発	8:40	お別れ会 そばの郷発 休憩
12:00	昼食 利賀小	12:00	給食 そば農園着	12:15	民宿着	9:10	高岡駅着
12:45	アーパスホール発	14:00	そばの刈り取りをしよう	12:30	昼食(各民宿)	11:00	高岡駅発
13:15	そばの郷資料館見学	15:30	お別れの会	13:30	民宿ごとの活動をしよう 餅つき、わらじ作りなど	11:41	車中昼食
14:30	民宿へ移動(各民宿) 課題別に活動しよう	16:00	民宿着	17:00	検温・入浴	12:00	越後湯沢駅発
17:00	検温・入浴	17:00	検温・入浴	18:00	お別れ夕食会	14:03	東京駅着
18:00	夕食	18:00	夕食	19:00	ありがとうの会	15:20	
19:00	ありがとうの会準備	19:00	民宿の人に色紙を書こう	21:00	学習のまとめ	16:40	武蔵境駅着
21:00	学習のまとめ 健康観察	21:00	学習のまとめ 健康観察	21:30	健康観察・出発準備 就寝	17:15	解散式 解散
21:30	就寝	21:30	就寝				

○特色ある体験活動の内容

<自然体験活動>

1. 峠の一本杉をめざして・原生林を歩こう

利賀の森林を肌で感じ、一人一人が自分の課題に対して深く考え、行動できるよう12の民宿班に一人ずつの講師の先生についていただいた。ハイキングコースでは花や草木の名前を中心に利賀の森林や自然についての話を聞きながら歩いた。また、植物だけでなく、動物の糞や木に残る熊の爪痕などの説明もあり、子どもたちは興味を深め、学習した。サルスベリやオオバコ、クコやクズなどの秋の草花を手にとって観察ができた。



【ハイキングの様子】

今年はブナの原生林の中を通るコースで、そこに少し入ったところで昼食をとり、利賀の山々が見渡せる道を下りながら説明を聞いた。途中湧き水を飲んだり、坂上の大杉を見たりしながらそばの郷に着いた。子どもたちの関心にあわせた講師の方々の話から多くのことを学び、利賀の自然の雄大さを実感できるコースであった。

<学習体験活動>

1. 自分の箸を作ろう

民宿ごとに竹の箸作りを行った。民宿の方に箸作りの工程、小刀や紙ヤスリなどの道具の使い方を教えていただき、活動した。この宿泊中に自分で使う箸は自分で作ろうという目標をもって、意欲的に作業に取り組んでいた。班で協力して助け合いなが

ら絆を深めることができた。またこの箸づくりは民宿の方々との最初の体験活動ということもあり、十分にコミュニケーションがとれた活動であった。

2、稲刈りをしよう

学級ごとに、稲刈り、脱穀、笠懸と交代しながら行った。講師の方々に鎌での稲の刈り取り方、束ね方、笠懸の仕方などを教えていただきながら、体験活動ができた。今年はコンバインでの刈り取り見学もあり内容は充実していた。ほとんどの子どもは初めての体験であり、社会科で学習した「米作り」の学習を身近に感じる事ができた活動であった。



【稲刈りの様子】

3、森を守る仕事を知ろう

利賀村の森林組合の方から、森林を守る仕事の話と森林の大切さ、枝はらいの話聞いた。事前学習でじっくり森林の大切さを学んでいたのので、活発に質問する姿が見られた。実際にチェーンソーを使っての大木の切り倒しは迫力があり、林業体験として価値のあるものだった。トラックにその倒木を積載する様子を見せていただいた後、枝はらいをした。子どもたち一人一人がのこぎりを持ち、一生懸命木を切っていた。枝をはらうコツがなかなかつかめない子どももいたが、林業の苦労や努力を身をもって知ることができた。森林組合の方々の丁寧な指導と活動時間をしっかりとれたことがよかった。

4、課題別に学習しよう

事前学習で利賀村の文化・歴史・自然について調べた。その中で自分たちが疑問に思ったことや実際に見て、調べたいことを班単位で話し合い、選択課題として班毎に追究することとした。課題は利賀地方の動植物、利賀の民具と昔の生活、利賀地方の民話、利賀の子どもの伝承遊び、利賀のくらしと猟師、利賀地方の伝承料理、利賀地方の方言、今と昔の子ども遊び、利賀の歴史、利賀地方のくらし、利賀の森林と環境である。事前に現地と相談し合い、この10の課題を決め、講師をつけていただいた。セカンドスクール前半の体験学習とのつながりをもって学習できるように日程も後半に設定した。今年は体験的な内容が増えて、子どもたちにとっては印象がより深いものになっていた。また途中民俗資料館への徒歩移動による見学を組み込んで利賀のくらしにふれる機会を増やしたのもよかった。

5、そばの資料館を見学しよう

学級で分かれて、そば資料館の1・2階を見学した。1階ではそばの歴史や種類について資料館の方に解説していただいた。子どもたちは自分の調べたいことと関連させてメモをとり、質問した。2階ではそばの育ち方やそば作りに関するネパールとの交流の資料があり、郷土の文化についての展示を見学した。2日目に行ったそば打ちとのつながりを考えて理解を深めた。

6、そば刈りをしよう

鎌でのそばの実の刈り取り方やそばの収穫についての説明を聞いてから、グループごとにそばの刈り取りを行った。利賀小学校の高学年の子どもたちも参加して、協力して活動できた。刈り残しがないように鎌で刈っていくのはなかなか難しかったが、

子どもたちは一生懸命頑張っていた。またそばの脱穀も体験させていただいて、子どもたちは興味深く学習していた。そば打ちとそばの資料館見学と関連付けられる活動であった。

＜生活体験活動＞

1、そばを打って食べよう

利賀村の郷土料理であるそば打ち体験をした。民宿ごとに丁寧に教えていただき、子どもたちは粉に水を入れ、こねて、丸めて、伸ばして、切るなどの作業を熱心に取り組んでいた。初めてそば打ちをする子もおり、そば打ちの難しさを感じながらも自分たちで打ったそばをおいしく食べることができ、満足な表情を見せていた。

2、生命の大切さを知ろう(岩魚づかみから)

講師の方から、魚のつかみ取りの仕方やさばき方の話を聞き、安全に留意して川に入った。岩魚を手でつかんだことのない子どももおり、苦戦していたが手で岩魚をしっかりつかんだ時の達成感はいくつもの子どもたちが感じていた。また岩魚をさばく時には「どうしてもできない」という声もあがり、子どもたち一人一人がそれぞれ命の大切さに気づいていた。自分たちが生きるためには、他の生き物の命をいただいていることを実感した活動であった。

＜地域の人々とのふれあい＞

1、利賀小学校と交流会をしよう

利賀小学校に着くと玄関で、利賀小学校のみんなが出迎えてくれた。体育館での開会式の後各班ごとに自己紹介を行い、班についての利賀小の子どもたちと一緒に校内を見学した。利賀の地域にある学校の特色を感じながら、興味深く利賀小の子どもたちの説明を聞いた。その後再び体育館に集まり男子と女子に分かれて「麦屋節」を教えてもらった。初めて教わる踊りであったが、子どもたちは楽しみながら、利賀小学校の子どもたちと最後は全員で輪になって踊ることができた。踊りの後は各班に分かれて、「キンボール」を行った。ほとんどの子どもたちにとって初めてやるスポーツだったので、ルールになれない子もいたが、試合を重ねるうちに達成感をもって試合ができるようになった。利賀小学校の子どもたちも各班に一人ずつ入って、協力して活動できた。お昼は給食を校内で食べ、そのあと体育館でお別れのあいさつをした。利賀小学校の子どもたちと仲よくなり、別れの時は、別れを惜しみ最後までずっと手を振っていた。心の交流が深まる時間を過ごした。



【麦屋節を踊ろう】

2、民宿ごとの活動

一週間という期間で民宿の方々が本当の家族のように接してくださったおかげで、子どもたちは安心して利賀の生活を送ることができた。7日目には、事前に民宿の方々が計画し準備してくださった民宿での活動を行った。民宿毎の活動は子どもたちにとってどれもが貴重な体験になった。民宿の方々とふれあいで、子どもたちの心が豊かになり、ぐっと成長したように感じた。また、7日目の夜には「お別れ夕食会」が行われて、その後の「ありがとうの会」では歌を歌ったり、手紙を読んだり、利賀の

方々へ感謝の気持ちを伝えた。最終日のお別れでは、民宿の方々へ涙ながらに別れを告げた。

○児童の感想

- ・ 民宿から見える景色がとてもすてきで、自然のよさを感じました。自分の住んでいる家の周りとは空気も違って、すがすがしい気分になりました。
- ・ 箸作りでは、竹を小刀で削りました。竹を削るのは難しかったけれど、民宿のお父さんが丁寧に教えてくれました。自分で作った箸で食べる民宿の料理はとてもおいしかったです。
- ・ そば打ちは自分の思った通りにうまくはできませんでした。民宿のお母さんのように上手に生地をのばしたりはできなかったけれど、みんなで協力してつくったそばの味はとてもおいしかったです。
- ・ ハイキングでは、途中で笹の葉で船をつくったり、とちの実を拾ったり、野生のキノコを採ったりしました。峠の一本杉や、坂の上の大杉は迫力がありました。
- ・ 林業体験では、チェーンソーを使って大きな木を倒しました。倒れる瞬間は思わず「わーっ」と言ってしまうました。枝はらいが楽しく、もっと枝を切りたかったです。
- ・ 岩魚づかみはなかなか岩魚をつかめなかったのですが、岩魚をつかんだときはとてもうれしかったです。岩魚をさばくとき気持ちわるくなってしまいましたが、命をもらっているんだと感じました。
- ・ 課題別学習は利賀の自然について学びました。民宿のお父さんがパソコンで、花や木の名前を丁寧に教えてくれました。どの種類でも自然の中で共存しているのだと実感し、自然を大切にしていきたいと思いました。
- ・ 利賀小学校との交流では、麦屋節やキンボールと一緒にやって仲良くなれました。そば刈りも一緒にできて、もっと話をしたいと思いました。お別れの時はとても切なくなりました。
- ・ 相倉合掌造りの家は、地域の気候にあわせて、いろいろな工夫がされているんだと思いました。夏は涼しく、冬は暖かく、昔の人はすごいと思いました。
- ・ 最後の日、民宿でバーベキューをして、ありがとうの会をしました。みんなで練習した出し物で、感謝の気持ちを伝えました。セカンドスクールがもう終わりだと思うと、さみしかったです。
- ・ 利賀村を離れるときバスの中からお世話になったみなさんを見て、涙が出ました。本当の家族のように生活して、行く前に不安だったわたしが小さく見えました。もっと利賀村にいたかったです。

○保護者の感想

- ・ セカンドスクールに送り出す前は、正直不安な気持ちで一杯でしたが、帰ってきた子どもの姿を見て、本当によかったなと思いました。
- ・ 子どもはたくさん利賀村についての話をしてくれました。利賀の景色は朝と夕でち

がう美しさをみせてくれることやハイキングの話など興味深かったです。

- ・いきいきと目を輝かせながら自分が行ってきたセカンドスクールが貴重な宝物であるかのように話す姿が親としてほほえましかったです。
- ・民宿での班のみんなと協力したことや、頑張ってみんなで乗り越えたことなど、きっと民宿の方にあたたかく支えてもらって生活をしていたのだなと思い、感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・子どもは、早速班のみんなと話し合っ手紙を民宿の方に送りました。セカンドスクールはきっと一生忘れない出来事になったでしょう。

○プレセカンドスクールの効果が見られた点

自分のことは自分でする、グループの人と協力しながら生活するとなど、プレセカンドスクールでの宿泊体験の成果と言える集団生活の基礎的なことが身に付いていた。学習面では、事前学習、現地での課題追究学習、事後発表をそれぞれ関連させながら取り組む学習の流れがつかめていた。

○総合的な学習の時間との関連について

総合的な学習の時間に、セカンドスクールに行くまでは「利賀の森は地球を守る」というテーマで学習を進めた。1学期には校庭の樹木から始まり、雑木林や日本の森林について学習した。そして森林のはたらきの学習をすることで、私たちにとって森林がどれほど重要な役割をしているかということを考えさせながら学習を進めた。2学期には林業について学習した後に、現地での課題別学習につながるように、利賀村について調べ学習をしながら自分の課題がもてるように支援した。帰ってきてからの発表ではグループごとに活動の中で学習したこと、感じたことを中心にまとめさせ、自分たちの力で発表の方法を考えられるように助言した。3学期は、「おにぎりパーティーをしよう」という活動を予定している。現地で刈り取ったお米を送っていただいたので、それを使ってご飯を炊いておにぎりにして食べてみようという活動を行う。

○次年度へ向けての反省・課題

- ・林業体験の枝打ちをする際に、森林の中で生木を切る活動が行えるような場所の検討をしたい。
- ・課題別学習の内容は昨年度より、体験的な活動が増えたことはよかったが、現地の方と詳細を打ち合わせられるようにしたい。
- ・ブナの原生林を歩くのは貴重な体験であるので、もう少し時間をかけて歩かせたい。
- ・そば打ちとそばの資料館見学を同じ日に行えるようにし、より二つの活動を関連させて学習できるようにする。

第三小学校

10月14日～10月21日(7泊8日)

○日程表

10月14日(木)		10月15日(金)		10月16日(土)		10月17日(日)	
8:15	出発式	9:00	朝会	9:00	朝会	8:30	朝会
12:00	昼食	9:30	リンゴの収穫体験	9:30	農業体験(稲刈り・束ね・つるし)	9:00	尾瀬自然体験
13:00	開校式	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
15:00	周辺散策	13:30	片品北小訪問	13:00	食材作り体験(リンゴジャム作り)	13:30	尾瀬自然体験
16:00	花豆の皮むき・選別	16:00	夕方の会	15:30	尾瀬高校訪問	19:30	学習の記録
19:00	紹介の会	19:30	学習の記録	19:30	学習の記録		
20:00	学習の記録						

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・社会科の「わたしたちの生活と食料生産」で、自分たちが日頃食べているさまざまな食材は、国内の様々な地域で生産され、届けられていることを学習した。
- ・「米作りのさかんな地域」「野菜作りのさかんな地域」「水産業のさかんな地域」についての学習の中で、食料生産にたずさわる人々の苦労や工夫、願いについて知ることができた。この学習によって、セカンドスクールにおいて実際に農業にたずさわる人の話を聞いてみたい、自分も体験してみたいという思いにつながった。
- ・総合的な学習の時間において、4年生がプレセカンドスクールで植えた南魚沼市の苗を分けてもらい、バケツ稲の栽培に取り組み、米作りの過程について学習した。稲の生長の様子を観察するとともに、農家の方々の工夫や苦労を理解できるようにした。そして、片品村の稲とつなげるようにした。
- ・尾瀬に関する道徳資料を読み、調べたいという意欲をもてるようにした。
- ・尾瀬について調べたいと思ったこと(成り立ち、地理的条件、気候等)について、一人一課題をもち、図書資料・インターネット情報・観光パンフレット等を参考にして調べ学習を行い、まとめたものを冊子にした。その冊子を使い、事前学習を行った。
- ・お世話になる民宿の方に向けて交流するための自己紹介カードを作成した。
- ・片品北小学校の交流会で歌う歌や合奏する曲の練習をした。

群馬県利根郡片品村(花咲地区)

参加人数 男子28名 女子24名
計52名

10月18日(月)		10月19日(火)		10月20日(水)		10月21日(木)	
9:00	朝会	9:00	朝会	9:00	朝会	9:00	朝会
9:00	農業体験(脱穀)	9:30	川での体験	9:00	農業体験(脱穀)	9:30	川での体験
12:00	昼食	10:30	かまど作り	12:00	昼食	10:30	かまど作り
13:00	食材作り体験 (こんにゃく作り)	11:00	火おこし体験	13:00	食材作り体験 (こんにゃく作り)	11:00	火おこし体験
19:00	学習の記録	12:00	昼食づくり	19:00	学習の記録	12:00	昼食づくり
		15:00	感謝の会準備			15:00	感謝の会準備
		19:30	学習の記録			19:30	学習の記録

② 事後の学習内容

- ・国語科「お礼の手紙」の学習として、お世話になった民宿の方々、尾瀬高校の生徒さんたち、農協、リンゴ園、ネイチャーガイドなどの方々、指導員の先生方、看護師さん、片品北小学校の児童のみなさんにお礼を述べ、近況を報告する手紙を書いた。手紙の形式にあてはめながら、お礼の気持ちが伝わるように心がけ、真剣に取り組むことができた。
- ・総合的な学習の時間でバケツで育てた稲を収穫した。乾燥・脱穀・籾すりの作業を行った後、3学期におにぎりパーティーを計画している。学校のバケツ稲作りでは、セカンドスクールでの体験に比べ、ほんのわずかなもみしか得られないことを目の当たりにし、米作りの苦労を改めて知った。一粒の米をも無駄にはいけないという思いをかみしめることができた。
- ・3学期に4年生に向けてセカンドスクール発表会を計画している。体験・学習してきたことをまとめ、一人一人がポスターセッション型の発表を行う予定である。セカンドスクールのまとめをし、自分自身の振り返り学習をするとともに、4年生が来年度のセカンドスクールに向けて意欲がもてるようにしたい。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、川での体験・火おこし体験

民宿の近くに流れている塗川で体験を行った。今年は、気温が低く川の水も冷たいので水には入らず、川岸から石を裏返したり水の中を見たりして生き物の観察を行った。子どもたちは、寒さも気にせず、何か生き物がないか石を動かして熱心に探していた。赤蛙やゲンゴロウなどを見つけ観察記録をつけた。子どもたちは見つけた生き物の名前を知りたいと、学習指導員の先生に次々と質問をした。

次に、火おこし体験を行った。まずはかまど作りを行った。河原で石を拾ってグループご

とに、2つのかまどを作った。何よりも安全を優先させなくてはいけないので、しっかりと軍手をはめ、川岸に下りては一人一つ安全に石を持ってくるという作業を繰り返した。また、川岸へ下りる道が狭いので、一方通行として安全に配慮した。子どもたちは、どんな石を集めたらいいかグループで話し合い、知恵を絞っていた。石を集め終わるとかまどにかける鍋の大きさや風向きを考えながら組んでいく。この間、教師は口をはさんだり、手を出したりすることを控え、子どもたちに試行錯誤させた。どうしても困った場合、宿の方や指導員に相談しヒントをもらっていたが、ほとんどのグループが自分たちでかまどを作り上げた。かまどができあがったら火おこしである。火おこしは、焚きつけ用の新聞紙1枚とマッチ5本だけで行う。子どもたちは、火をおこすために、ああでもない、こうでもないというグループごとに頭をひねっていた。最後の1本で火がついたグループもあれば、5本使いきっても火がつかないグループもあった。火がつかなかったグループは、同じ班の仲間からマッチを分けてもらって再挑戦した。見事に火がついたときは、一斉に「やったあ。」と大歓声をあげていた。満面の笑顔であった。その後、おこした火ですいとんを作り、じゃがいもをゆでた。最後は、やけどに注意をさせ、冷えた石から一つひとつ河原へ戻した。また、かまどを作った所に何も残さないようにごみ拾いもしっかりと行った。

2、尾瀬ヶ原ハイキング

尾瀬ハイキングへ行く前日、子どもたちは尾瀬高校を訪問し、当日ネイチャーガイドとして案内してくれる高校生との顔合わせを行った。グループごとに自己紹介をした後、尾瀬高校の施設や植物園（ミニ尾瀬）を案内してもらった。実験施設、標本などが整っており、子どもたちは目を輝かせて高校生の話を聞いていた。また、植物園（ミニ尾瀬）では、実際に尾瀬で使われた木道が再利用され、その上を歩けるようになっており、尾瀬でのマナーや、木道の歩き方などを実際に体験しながら学ぶことができた。高校生も、子どもたちの名前を積極的に覚え、優しく接してくれたため、次の日に控えた尾瀬ハイキングがより楽しみになったようだった。

尾瀬での自然体験の当日は、天気にも恵まれ、尾瀬ヶ原がよく見渡せた。ガイドの高校生は、途中立ち止まりながら、尾瀬の歴史や植物の名前、周囲に見える山々の名前や川の生物についてなどについて、子どもたちにていねいに話してくれた。子どもたちも、質問をしながら、興味深く学習した。ちょうど紅葉も見事な時期であり、子どもたちも自然の雄大さや美しさに感動しながら歩くことができた。また、鳥やシカの鳴き声が聞こえ、クマが登った木が見られるなど、尾瀬の自然の中で動物たちが生きている様子を感じることができた。高校生たちが、子どもたちの体力を考えながら歩き、励ましてくれたおかげで、楽しく安全にハイキングすることができた。

3、武尊牧場自然体験

民宿からマイクロバスで約20分のところに、武尊牧場がある。バスで上がった山頂は、白樺の木々が立ち並ぶ広々とした高原で、天気がよければ武尊山、そして遠くには富士山も見ることができるが、当日は深い霧がかかっていたため、残念ながら山を見ることはできなかった。森には自然観察のための遊歩道があり、現地の指導員の方々の案内で約1時間トレッキングをした。奥に入ると遊歩道は、ブナの原生林に囲まれており、子どもたちはふかふかなブナの落ち葉の上を、指導員の先生の説明を聞きながら歩いた。途中で白樺やブナの木の話を聞いたり、ブナの実を拾ってみたり、ナナカマドの芽を味わうなど、楽しみながら活動をしていた。また、クマがハチミツをとるために開けた木の穴を見たり、ホコリダケ、ベニテングダケ

等のいろいろな種類のキノコを見つけたりしていた。遊歩道の途中には湧き水が飲める水場もあり、その冷たさとおいしさに子どもたちは感激していた。

4、イナゴ捕り

田んぼでの稲刈りや脱穀の後は、みんなでイナゴ捕りをした。今年は夏の気温が高かったせいか、昨年よりイナゴの数が少なかった。しかし、はじめて体験するイナゴ捕りに子どもたちは夢中になっていた。初めは「怖い」と言っていた子たちも、いつの間にかこつをつかみ、素手で何匹も捕まえられるようになっていた。中には「生まれて初めて虫に触れた。」と喜びながら、自分で捕ったイナゴを大事そうに見せにきてくれる子もいた。捕ったイナゴはペットボトルや布袋に入れ、民宿に持ち帰った。宿の方に佃煮にさせていただき、川体験の昼食後に届けてもらった。「食べるのは無理」と大騒ぎしていた子どもたちも、恐る恐る口に入れてみると「とてもおいしい。」「えびみたい。」と大喜びだった。すべての班が山盛りのイナゴの佃煮を完食してしまった。

<学習体験活動>

1、農業体験(稲刈り・脱穀)

民宿の方々をゲストティーチャーとして招き、稲刈りと脱穀の体験を行った。まず、3日目には稲刈り体験として、「刈り取り」「束ね」「つるし」「落ち穂拾い」までの一連の作業を行った。民宿の方に鎌の使い方を教えていただき、クラスごとに稲を刈っていった。最初は鎌を使って刈ることに時間がかかった子どもたちも、慣れてくると無言で作業を進めていった。民宿の方の鎌さばきは見事で、稲刈りの速さに子どもたちは「おー。」と歓声をあげ、農家の方の技に驚かされた。作業の中で一番難しかったのは「束ね」だった。わらを使って、刈り取った稲を固く結ばなければならない。最初は、結び方が弱く、つるす前にほどけてしまうものもあったが、民宿の方に教えてもらいながら、何回も束ねる作業をするうちに、固く結べるまでになった。民宿の方にもほめてもらい、嬉しそうに作業していた。慣れない作業だったが、みんなで協力し、予定していた田の稲をすべて刈ることができた。実際に、体験をしてみても昔の農家の方々の苦勞を感じることができた。

5日目は、脱穀の仕方を教えていただいた。つるしてある稲を脱穀機に入れ、残ったわらを二人一組で縛って束ねる作業をした。脱穀機を使うため、安全については事前に指導をした。子どもたちは、一瞬で脱穀してくれる機械に興味津々で、稲をもって行列を作って作業に取り組んだ。途中で、もみの入った袋(30キロ)をトラックに運ぶ作業も行ったが、あまりの袋の重さにびっくりしていた。最後は、全員でしっかりと落ち穂拾いを行った。

機械はとても速く便利だけど、機械が取り落としてしまうものもあり、落ち穂を拾うという人の手の大切さも学び、「米一粒もむだにできないね。」と言う子もいた。農家の方の苦勞と食べ物大切さを実感できる体験となった。



【稲刈りの様子】

2、片品北小学校との交流会

一昨年度から引き続き第3回目となる片品北小学校との交流会を行った。片品北小学校は、全校児童 50 名弱の小規模校である。今年度も全校を挙げて私達を迎えてくれた。まず、互いに代表者があいさつをしたあと、片品北小の子どもたちがポスターセッションをしてくれた。4年生から6年生までが、一人ずつ尾瀬の自然についてテーマを設定し、調べ、まとめたそうだ。尾瀬の植物や動物、環境の問題など、写真や絵をつかって一生懸命説明してくれた。三小の子どもたちは、静かに発表を聞き、感想や質問をして尾瀬についての知識を深めることができた。

続いて、音楽の交流を行った。北小の子どもたちからは合唱のプレゼント、三小の子どもたちからは、歌と、吹奏楽器紹介と演奏のプレゼントをした。その後、「ビリーブ」を全員で合唱した。体育館に互いの声が響き合い素敵な音楽の交流になった。

互いに演奏を披露したあとは、尾瀬カルタ大会を行った。このカルタは片品北小学校の卒業生が在学中に描いた尾瀬の花などをカルタにしたものである。昨年度もカルタ大会は行っており、昨年の5年生から北小の子どもたちは強いという話を聞いていたので、子どもたちもとても楽しみにし、宿でも練習して意気込んでいた。2回戦行い、1回目は北小の校長先生が札を読み、2回目は三小の校長が札を読んだ。やはり北小の子どもたちは強かったが、グループによっては三小が2勝したところもあり、大変盛り上がった。また、北小の子どもたちと仲良く話をしながらカルタ取りをやっている様子も見られた。下級生に負けて悔しがっている子もいたが、みんな笑顔で盛会のうちに交流会を終えることができた。心温まる交流会となった。



【片品北小学校での様子】

<生活体験活動>

1、民宿の方とのふれあい

52名の子どもたちが6軒の民宿に分かれて宿泊した。緊張した面持ちで民宿に入る子、「ここか。」とうれしそうに民宿を眺める子など、民宿の方に案内されてそれぞれの宿へ入っていた。民宿の方の温かいもてなしで、子どもたちはすぐに民宿の方と打ち解け、生活にも慣れた。畑での収穫の手伝い、こんにやく・りんごジャムづくり、火おこし体験など、たくさんの体験を一緒に行い生活する中で、民宿の方々の経験の深さや知識に驚き、地元の方に尊敬の念をもった。

○児童の感想

- ・一日一日が楽しくて、すぐ次の日がやってくるようで、長いセカンドスクールが短く感じました。私は感動して泣いたことがあまりなかったのに、閉校式の最後の最後に泣いてしまった。かまど作り、食材作りなどではずっと心配してくれていた。本当に民宿のお父さん・お母さんは優しかった。
- ・最終日に、ぞうきんでからぶき・水ぶきをした。そうじを一生けん命やっていると、なんだか悲しく、涙が出そうになった。自分の泊まった宿をきれいにすると、とっても気持ちが良いと思った。
- ・私は初めてりんごジャムを作りました。包丁を使うのは苦手だけど、お母さんが優しくリン

ゴの切り方を教えてくれたので、とっても上手にできました。本当にリンゴジャムを食べたとき、おいしかったです。宿のお父さん、お母さん、今までありがとうございました。

○保護者の感想

- ・セカンドスクールから戻ってからは、とても自主的になりました。自分のことを自分でしっかり行うようになり、たくましくなりとても成長したように思います。セカンドスクールという取り組みはとても素晴らしく、感謝しています。
- ・指導員の先生の話、民宿の方の話など、とても楽しそうに話してくれて、充実した活動をしたのだと感じました。
- ・夜眠れるか心配して出かけましたが、指導員の先生や友達、先生方に声を掛けてもらい、7泊8日乗り越えることができ、よくがんばったと思い、大きな成長を感じました。

○総合的な学習の時間との関連について

セカンドスクールでは稲刈りや脱穀の体験をしたが、収穫体験だけでは子どもたちは米作りの工夫や苦労を実感することはできない。そこで、4月から総合的な学習の中で一人一つのバケツで稲を育てた。社会科の学習で学んだことも活かし、米作りを実際に体験させることができた。

3学期に4年生に向けてセカンドスクールについて伝える発表会を行う。活動内容だけでなく、そこで学んだことや感じたことなどもわかりやすく伝えられるよう指導する。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

- ・集団生活における基本をプレセカンドスクールで身に付けていたので、規則正しく生活することができた。また、友達と大きなトラブルを起こすこともなく、トラブルが起きても自分たちでよく話し合って解決し、落ち着いて生活することができた。
- ・この行事を支えてくださっている人々がいることを理解し、かかわる方々に感謝の気持ちをもって接することができた。

○次年度にむけての反省・課題

- ・昨年度の反省をふまえ、片品村到着後の昼食を体験館でとらせてもらった。トイレも完備されており、雨天を想定して雨よけをつけて利用させてもらうこともできるので大変よかった。
- ・体調を崩す児童が出ないように、手洗いうがいを徹底して行わせ、状況に応じてマスクを着用させた。ぜんそく、咳を発症した児童のために、医薬用のど飴や息苦しさを軽減させる胸の塗り薬を準備すると良い。また、空気が乾燥しているので、唇に塗れるケース入りの薬用リップクリームもあると良い。
- ・尾瀬ヶ原に行くためのバスは予想よりも時間がかかってしまい、鳩待峠（ハイキング出発地点）の到着が遅れてしまった。計画段階で尾瀬高校に予定を伝えて、実時間と予測時間の差が大きくなるないように計画すると良い。
- ・閉校式は雨天だったため、花咲の湯前の仮設テント内にて実施した。当初、施設内のホールを借りようとしたが、急なことで使用できなかった。次年度はあらかじめ予定に入れておくとよい。

第四小学校

6月4日～6月10日(6泊7日)

○日程表

6月4日(金)		6月5日(土)		6月6日(日)		6月7日(月)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
8:30	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
13:30	戸狩到着、開校式	9:00	田植え体験	9:00	ブナの森を見よう	9:00	林業体験
15:00	はし作り	12:00	昼食	12:00	昼食、宿舎へ戻る	12:00	昼食、宿舎へ戻る
17:00	健康観察	13:30	雪国の暮らし	13:00	飯山の歴史について	13:30	わらぞうり作り
18:00	夕食	14:30	宿ごと体験	14:30	手すき和紙体験	17:00	健康観察
19:00	入浴	17:00	健康観察	17:00	健康観察	18:00	夕食
20:00	語らいの時間	18:00	夕食	18:00	夕食	19:00	キャンプファイヤー
	今日のまとめ	19:00	入浴	19:00	入浴	20:00	入浴
21:30	就寝	20:00	語らいの時間	20:00	今日のまとめ	21:00	語らいの時間
			今日のまとめ		手紙を書こう		今日のまとめ
		21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

[4月中旬～4月下旬]

オリエンテーションを行い、飯山市についての自然や産業、気候などの情報やセカンドスクールまでの学習の進め方などの説明をした。

[4月下旬～5月下旬]

オリエンテーションをもとに、関心をもった事柄をもとに事前の調べ学習の課題を選択し、個々で課題解決に向けて取り組んだ。またテーマごとに調べた事柄を発表し、意見交換などを通して課題を深めていった。その際、以下の資料等を手がかりに進めた。

<児童が使った資料>

- ・ホームページ
- ・観光パンフレット
- ・観光協会の方に送ってもらった資料

<児童が選択したテーマ>

- ・飯山の生き物
- ・飯山の歴史
- ・飯山の植物
- ・飯山の農業
- ・飯山の伝統工業(飯山仏壇)
- ・飯山線
- ・飯山の山、川 など

長野県飯山市戸狩

参加人数 男子32名 女子27名
計59名

6月8日(火)		6月9日(水)		6月10日(木)	
6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	ハイキング体験	9:00	焼き板体験	8:00	荷物整理、部屋掃除
12:00	昼食(べんとう)	10:00	笹寿司作り	9:30	閉校式
15:00	自由散策	12:00	昼食	10:00	戸狩出発
17:00	健康観察	13:30	雪国の暮らし	12:00	昼食
18:00	夕食	14:30	セカンドスクールをまとめよう	16:00	学校到着
19:00	入浴	16:00	宿の方々への手紙	16:30	解散
20:00	語らいの時間	17:00	健康観察・入浴		
	今日のまとめ	18:30	お別れ夕食会		
21:00	就寝	19:30	感謝の交流会		
		20:00	今日のまとめ		
		21:30	就寝		

② 事後の学習内容

11月中旬から、12月初めに予定している学習成果発表会に向けて準備を進めている。個々の課題について事前・現地で学んだことを、来年度セカンドスクールに行く4年生に向けて発表するため、ポスターや寸劇を作っているところである。現地で実際に見たり聞いたりしてきたことやいただいてきた資料などを活用しながら活動を進めている。

さらに、現地の宿舎の方々や指導員の方々を本校に招待し、体育館で保護者も交えた『セカンドスクール交流会』を実施する。ここでは、感謝の気持ちを込めて宿ごとにセカンドスクールでの思い出を寸劇などで表現する。また、セカンドスクールで体験した「笹ずし作り」で行った調理を生かしてみそ汁を作り、宿舎の方々や指導員の方々に向けて振る舞う予定である。児童、保護者、戸狩の方々の三者が顔を合わせた心温まる交流会で、戸狩の方々との心の交流をさらに深めていきたい。

○特色のある活動内容

1、箸作り

宿の方々の温かい歓迎を受けた開校式の後、各宿に分かれて箸作りをした。セカンドスクールで滞在している期間、毎食事で使う箸である。誰よりも良い箸を作ろうと、無我夢中で竹を削っていた。作っているところを見ているだけでは感じられない難しさに戸惑いながらも、分からない点やコツを宿の方が丁寧に教えてくれたおかげで完成した箸。形は整ってい

なくても、宿の方にほめていただき、楽しく箸作りをすることができた。この体験を通して、児童と宿の方との距離が縮まった。帰京後も作った箸を家庭で使っている児童が多くいる。

2、田植え体験

帰京後の社会で学習する稲作について、体験することができた。初めに、宿の方から稲作と田植えについての講義があり、児童にとって待ちに待った田植えである。

最初は「気持ち悪い」「ヌルヌルする」という声もあったが、しばらくすると「土の感触が気持ちよく感じるようになってきた」「楽しい」という感想に変わってきた。

宿の方がロープを用意してくださり、掛け声に合わせて一列ずつ植えたので、とてもきれいな仕上がりとなった。自分たちが植えた苗を見て、「見た目はきれいとは言えないけど、みんなで協力して植えた田んぼで育ったお米を想像すると、とても楽しみです。」と作文に書いた児童もいた。



【田植え体験】

3、宿ごと体験

各宿の方々がそれぞれの宿の特色を生かした体験学習を用意してくださる時間である。都会ではできない貴重な体験学習に児童たちは楽しく生き生きと取り組んでいた。メニューは以下の通りである。

- ・うちわ作り
- ・竹馬作り
- ・そば打ち体験
- ・よもぎ餅作り
- ・餅つき体験
- ・バームクーヘン作り



【うちわ作り】



【餅つき体験】



【竹馬作り】



【そば打ち体験】

4、ブナの森を見よう

宿の集落からバスで30分ほど移動し、茶屋池周辺のブナの森を散策した。ブナの森の中は気温が低いため、6月ではあるが残っていた雪の上をハイキングすることになった。雪の重みにうち勝って育つブナのたくましさやブナの森の役割、さまざまな動植物の生態などについて、「森の家」の講師の方から詳しく話を聞きながら散策をした。児童たちは、実際に木々の葉や実に触れながら、たくましく生きるブナの姿を目の当たりにして、自然の知恵や不思議、尊さを感じていた。



【ブナの森を見よう】

5、林業体験

始めに、森林を守ることの大切さや森の家の取り組みについての話を聞いた。次に、チェーンソーを使って大きな木を伐採するところを見せていただいた。1本目は周りの木々に絡まって上手く倒れなかったが、2本目は枝と枝、葉と葉が音をぶつかりながら倒れていく様子を見ることができ、児童たちから歓声があがった。どの木を伐採するか、また、倒す方向を考えていることも学んだ。そして今度はグループに分かれて、枝が密集して日光が当たらなくなってしまった場所で、のこぎりをを使った間伐体験を行った。考えていた以上に枝を切り落とすことが大変だということを知り、のこぎりの使い方や枝の選び方を教わりながら、児童同士で協力し合いながら取り組んでいた。



【林業体験】

6、わらぞうり作り

わらを編んで2足のわらぞうりを作る活動である。5年生の国語の教材に、『わらぐつの中の神様』という物語文がある。その中で、主人公のおみつさんが見よう見まねでわらぐつを編む場面がある。わらぐつを編むための苦労を感じて欲しいと思い、この体験を設定した。宿のお父さん、指導員に教わりながら、児童たちは2時間以上座ったまま熱中してわらぞうり作りに取り組んだ。わらぞうりの形が不格好だったり、左右の大きさが違っていたりしても、児童たちは嬉しそうに自分で編んだわらぞうりを履いて地面を踏みしめていた。



【わらぞうり作り】

7、手すき和紙体験

飯山市は、和紙作りに適した気候と、飯山和紙の原料となる「こうぞ」が和紙作りがさかんな地域であった。飯山市内でも、和紙を作っている数少ない製紙工房の一つである阿部製紙工房で、伝統工芸品に指定されている内山紙をすく体験を行った。「聞く・すく・見る」の活動に分かれてローテーションで体験活動を行った。

「聞く」では内山紙の歴史や原料、和紙の構造などの詳しい説明を聞き、「すく」では、すき、プレス、乾燥の工程を体験してみる。「見る」では工房の中を見学し、原料のコウゾなどが和紙になるまでの過程を学習した。すいた和紙は、セカンドスクールの後半に各自の手元に届き、児童たちは手作り和紙の質感やあたたかみを感じていた。



【手すき和紙体験】

8、お別れ夕食会

6日目の夜は、各宿で児童たちの企画したお別れ夕食会が催された。宿の方々に対し、7日間お世話になった感謝の気持ちを自分なりに工夫して表現する。準備は毎日の自由時間を使い、班長中心に協力して進められる。劇や歌などの出し物、色紙や手紙、手作りのプレゼントなどを宿の方々には内緒で用意する。短時間のうちにそれぞれ趣向を凝らした出し物を

用意できるのも、感謝の気持ちが児童同士の心をつなげるからであると感じた。

9、涙のお別れ

最終日の朝、1週間お世話になった宿の方々とは別れを告げる閉校式を終えた後、いよいよバスに乗り込む時。目を真っ赤にして宿のお父さんお母さんに最後の別れを告げる。宿の方々も涙を流している。バスが出発すると、宿の方々が見えなくなるまで手を振る。その後、しばらくは会話もなくすすり泣きの声がバスの中に響き渡る。宿の方々への感謝の気持ちが言葉なしでも伝わってくる。児童と宿の方々との心の繋がりは学校に戻ってからはずっと続き、児童同士の繋がりに関しても卒業まで続くことになる。

○児童の感想

- 私がセカンドスクールで一番楽しくて心に残った出来事は、林業体験です。二人一組のペアになって、のこぎりで木を切っていきました。のこぎりを使うのがむずかしくて、時間がかかったけれど、枝や葉がたくさんついた大きな木を切ることができたので、うれしかったです。暑い中大変だったけれど、切り終わった時はとてもすっきりしていい気分になりました。
- 思い出の一つは、田植えです。ぼくは、初めて田んぼに入ったので、どろのムニムニは初めての感覚でした。そして、宿の父ちゃんに植え方を教えてもらい、田植えを始めました。最初は、なかなか身動きが取れず、上手になえを植えられなかったけど、だんだんとやっているうちに動きやすくなり、上手になえを植えられるようになり、最後の所まで植えきって、だんだん上手になってきて、うれしかったです。このなえがおいしいおいしいお米に育つのがとても楽しみです。
- 午後3時。東京にいる。宿のみんなや山と田んぼがどこまでも続く風景、初日はうるさいと思ったカエルの鳴き声、どれもみんななつかしい。この一週間飯山で過ごした思い出は忘れない。東京に帰ってきてからの私は行く前と比べて積極的になったと思う。何かをやりとげたという達成感もある。セカンドで聞いたこと体験したことをこれからの生活に生かしていきたい。本当にみんなありがとう。

○保護者の感想

- セカンドスクールへ行く前は、6泊7日という長い外泊に少し緊張と、同時に友達との共同生活への期待があったようです。帰ってからもおりにふれて楽しかった思い出を話しています。宿のお父さん、お母さんのお手紙や作ったものを宝物にしています。
- 6泊7日でこの時期に出かけるというのは、ちょうどよいと思います。インターネットで毎日様子を見ることができよかったです。セカンドスクールでの生活ははじめての体験ばかりで、一つ一つ体験し、自信をもつことができたようで、考える力も学んでくれたようにも思います。五感での学びはとても大切です。これからも続けていただきたいと思います。

○総合的な学習の時間との関連について

本校では、セカンドスクールを5学年の総合的な学習の時間の中心的な単元として位置付けている。1学期から2学期まで、55時間扱いの指導計画である。

実施時期	指導内容と単元名 (・は主な内容)
1 学期	『出会い・ふれあい…セカンドスクール』 4月～6月 「飯山ってどんなところ？」 (10時間) ・オリエンテーションを行い、セカンドスクールについて知らせる。 ・調べ学習テーマの選択と学習計画立案。 ・資料や取材活動、インターネットを活用した調べ学習。 ・グループごとに情報交換を行い、課題を深める。
	「セカンドスクール」 6月上旬 (30時間) ・現地での体験や課題別学習による課題の追求。 ・自然や現地の方々との交流、新たな課題の発見。
	『セカンドスクールをまとめよう』 6月中旬 「これまでの学習をまとめよう」 (2時間) ・事前学習や現地で学んだことを新聞にまとめる。
2 学期	『セカンドスクールを伝えよう』 10月～12月 (15時間) <セカンドスクール学習発表会> ・発表したい体験活動を考え、グループに分かれる。 ・グループごとに発表の内容や方法、発表の流れなどを話し合う。 ・役割分担をし、練習や準備をする。 ・グループの発表を互いに見合い、伝えるための工夫などについて話し合う。 ・4年生へ向けてセカンドスクールの発表を行う。 <セカンドスクール交流会> ・宿の方たちへの感謝の気持ちを込め、役割分担して準備を進める。

○次年度に向けての反省・課題

- ・自然体験活動を重視し、児童の実態を考慮しながら学習プログラムや、プログラムの開始時間などの改善を進めていきたい。現地の方々との連携をさらに深めていく必要がある。
- ・児童の実態に合った計画を迅速に立案、実行できるよう、観光協会との連携、情報交換、協力体制を要望していくことが今後も継続して必要である。

○プレセカンドスクールの効果が見られた点

- ・児童が宿泊行事に対する見通しをもって準備や事前の学習に取り組んでいた。
- ・保護者にとっても見通しをもてたようである。「安心して送り出すことができた。」という意見が多数あった。
- ・5分前行動や荷物整理など昨年度学習したことが、今回の集団行動や各民宿での生活に活かされていた。
- ・健康面や生活面で配慮を要する児童を事前に把握できたので、対応しやすかった。

第五小学校

9月28日～10月5日(7泊8日)

○日程表

9月28日(火)		9月29日(水)		9月30日(木)		10月1日(金)	
8:15	学校集合	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	学校出発	9:00	テーマ活動①	9:30	川での活動	9:00	テーマ活動②
11:30	川場村到着	12:00	昼食		つり体験	12:00	昼食
11:35	開校式	16:30	民宿帰着	12:00	昼食	16:30	民宿帰着
	各民宿へ移動						
11:50	昼食	18:00	夕食	13:30	クラフト活動	18:00	夕食(バーベキュー)
	民宿付近の散策	20:30	学習のまとめ				学習のまとめ
			健康観察	16:30	民宿帰着	20:30	健康観察
14:00	加工食品体験	21:30	消灯	18:00	夕食	21:30	消灯
18:00	夕食			20:30	学習のまとめ		
					健康観察		
20:30	学習のまとめ			21:30	消灯		
	健康観察						
21:30	消灯						

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

【4年生1学期】

- ・5年生のセカンドスクール報告会に参加
→プレセカンドスクールや、セカンドスクールへの興味関心を高める。

【4年生2学期】

- ・プレセカンドスクールの実施→川場村の散策、りんご狩り体験、酪農体験等

【5年生1学期】

- ・川場村より苗をいただき、学校の田んぼで全員が田植えの体験をした。秋には収穫を行い、米作りの1年を学習した。
- ・日本文化体験の事前学習として、茶道クラブの顧問の指導の下、ランチルーム和室で茶道体験を行い、礼儀作法について学習した。
- ・国語科や社会科の学習を中心に、グループごとに、学校の中で調べ学習の事前学習を行った。課題解決までの計画を話し合い、どのように調べ、課題を解決するかを学習した。

群馬県利根郡川場村

参加人数 男子18名 女子30名
計48名

10月2日(土)		10月3日(日)		10月4日(月)		10月5日(火)	
6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:30	稲刈り体験	9:00	テーマ活動③	9:00	日本文化体験	8:30	荷物整理
12:00	民宿帰着	12:00	昼食		茶道体験	9:30	ホテルSL
	昼食	16:30	民宿帰着		日本庭園見学		学習報告会
13:30	農業体験	18:00	夕食	12:00	民宿帰着	11:30	昼食
	りんご狩り体験	20:30	学習のまとめ	13:00	宿ごとの活動	12:30	閉校式
			健康観察		みんなで作ろう 川場の食事	13:00	ホテルSL出発
16:30	民宿帰着	21:30	消灯		感謝の会	13:15	ぶどう園見学
15:30	宿ごとの活動			18:00	夕食	16:10	学校帰着
	そばうち体験				学習のまとめ		
	うどんうち体験			20:30	健康観察	16:15	帰校式
	もちつき体験						
20:30	学習のまとめ			21:30	消灯	16:25	解散
	健康観察						
21:30	消灯						

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験を作文にまとめた。
- ・体験を生かし、学校の田んぼで稲刈りをした。
- ・セカンドスクールでの体験をもとに、グループごとに課題を設定し、調べたことをまとめた。また、それを川場村交流会で、川場村の方々に発表した。
- ・民宿の方や指導員など、お世話になった方々へ御礼の手紙を書いて送った。
- ・セカンドスクールでの体験をもとに、グループごとに課題を設定し、調べ学習を行った。また、それを川場村交流会で、川場村の方々に発表した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、テーマ活動

「川での活動」「自然体験活動」「果樹・農作物に関する活動」の3つのテーマを設定し、全部

で3回の活動を設定した。各グループには、それぞれインストラクターがつき、川の上流・中流・下流の観察や川場の自然探し、武蔵野と川場の農業の比較など、多くの体験活動を行った。これらの活動を通して、児童は川場の自然についての興味をもったり、川や石、農業について興味をもったりして、学校に戻ってからの課題設定に向けて充実した体験をすることができた。

<活動例① 川での活動>

- 午前・・・桜川や薄根川の上流で、流れの速さや石の大きさなどを観察し、散策する。
桜川や薄根川の中流で、流れの速さや石の大きさなどを観察したり、赤倉溪谷で水晶を探したりする
- 午後・・・清流公園で下流の流れの速さや石の大きさなどを観察する。
川に棲む生物を捕まえる方法を教えていただき、実際にその方法を体験する。



【自然体験の様子】

<活動例② 自然体験活動>

- 午前・・・インストラクターの方のギャラリーにおいて、川場村に住む動植物の写真を見て、自然の中で何に着目するかということ学習する。その後、実際に山に入り、一人一人が興味をもったものや、武蔵野では見られないものを集めて歩く。
- 午後・・・午前中に集めたものを見せ合い、自分が感じたことを発表し合う。また、集めたものをスケッチする活動を行う。

<活動例③ 果樹・農作物に関する活動>

- 午前・・・川場村の畑や水田で栽培されている果樹や農作物を見学する。
川場村のマーケットで売られている農作物・加工品を調べる。
- 午後・・・脱穀の体験をする。また、武蔵野と川場の農業の比較や、米の収穫予想の仕方について学習する。

2、学習報告会

グループごとに、7泊8日の民宿での共同生活や自然体験活動などをふり返り、それを一人一人が漢字1字で表して発表した。様々な体験を通して感じたこと、感動したこと、集団生活の中で協力することや相手を思いやることの大切さ、などを発表した。また、セカンドスクールを通して自分が成長したと思うことを発表した。

＜学習体験活動＞

1、稲刈り体験

民宿の田んぼを借りて、稲刈り体験をした。グループごとに民宿の方が鎌の扱い方から教えていただき、収穫した。はじめは田んぼを歩くことすら一苦勞の児童が多かったが、少しずつ慣れ、上手に役割分担をしながら収穫することができた。収穫できるという喜びを感じながら、楽しんで取り組んでいた。刈ったり、干したりする活動を行っていく中で、児童は、農作物を育てることの大変さや、食べ物の大切さを実感することができた。その日の夕食では、米一粒一粒を味わって食べている児童の姿が印象的であった。



【稲刈りの様子】

2、りんご狩り体験

6 民宿の児童を 3 民宿ずつ 2 箇所のりんご園に分けて、りんご狩り体験をした。りんごの品種ごとの特徴や 1 年の仕事などについて、農家の方から貴重なお話をいただいた。児童のりんご栽培への興味・関心が高まり、事後の調べ学習でも、課題として設定している児童が多かった。

＜生活体験活動＞

1、宿ごとの活動①

民宿ごとに「そばうち」「うどん作り」「もちつき」などの体験をした。初めて体験した児童が多く、児童は普段何気なく食べているものを手作りで行うことが、予想以上に大変であるということを実感した。「お店で買うものよりおいしく感じた。」「思ったより、時間も手間もかかったけれど、おいしくできてよかった。」などの感想が出ていた。

＜全体での体験活動＞

1、加工食品体験(おやき、ジャム、大福、コンニャク)

地元の特産品を使った手作り体験を行った。児童は、同民宿の中で、おやき、ジャム、ソーセージ、コンニャクの 4 つの食品のどれかを事前に選択して体験した。身近な食品でも実際に作ることは初めての児童がほとんどで、「こんなふうにできているなんて知らなかった。」「作ってみるとおもしろい。」という感想が多かった。

体験後は、全員で集まり、互いに作り方や感想などを伝え合った。それぞれが担当した食品は民宿に持ち帰り、自分たちで作った加工食品を味わった。

2、川での活動・釣り体験

薄根川の水を利用している釣り堀で、ニジマス釣りの体験をした。興味関心の高い児童が多く、セカンドスクールの実施前から楽しみにしている児童が多かった。餌のブドウ虫をつけるところで苦戦する児童が多く、上手くできた児童や経験のある児童が教え合ったりしながら意欲的に取り組んでいた。釣り上げた魚はすぐにさばき、その場で焼いていただき、食べた。「何だかかわいそう。」「食べ物のありがたみを改めて感じた」という感想を作文に書いた児童も多く、「命をいただく」ということを学ぶ貴重な経験となった。

3、クラフト(しらかばの壁掛け)

しらかばの板に、セカンドスクールへの思いや、経験した出来事を描いた。川や山などの自然や、体験活動の様子を描いたり、グループの仲間の絵や名前を入れて、思い出の品にしている児童も多かった。活動は2日目に行ったということもあり、その後の体験活動の中で拾い集めたものなどを、飾りとしてついたり、新たな体験について描き足したりするなど、7泊8日を通して作品を作り上げた。

4、日本文化体験(茶道体験・日本庭園見学)

百花園では、水芭蕉やたくさんのお花が咲いていて、その美しさを感じた。また、大きな山門、数々の仏像、滝や池、苔などを見て、その趣を感じた。事前学習を生かし、礼儀作法に気をつけながらお茶をいただくことができた。足がしびれているにもかかわらず、「お茶がとてもおいしく感じた。」といった声が聞かれた。日本庭園の美しさ、茶道の楽しさを体験するよい機会となった。事後の学習では、茶道について調べ、まとめている児童もいた。



【茶道体験の様子】

○児童の感想

- ・武蔵野にはない動植物に驚いた。自然を守るということの大切さを感じた。
- ・7泊8日の共同生活の中で、協力し合うことの大切さを学んだ。
- ・日が経つにつれて、自分のことは自分でやらなければならない、ということ強く思うようになった。
- ・周りの仲間と一緒にだったから楽しかった。楽しさや感動的な体験をともにすることの良さを感じた。

○保護者の感想

- ・仲のよい友達が増えたように感じる。また、家でも少しずつ自分のことを自分でやるようになってきた。
- ・7泊8日家を離れること自体が初めてで、心配が多かったが、帰ってきたときの「楽しかった」という第一声に安心した。

○総合的な学習の時間との関連について

総合的な学習の時間では、「触れ合おう人と自然」というテーマで学習を進めている。セカンドスクールの多くの体験から、自分たちで課題を設定し、事後のまとめを行った。

事前学習では、課題の設定の仕方、課題解決の方法など、調べ学習について学び、各教科でも

実践を行ってきた。農業や環境問題などのテーマの中で、いくつかの課題を発見することができた。また、グループでの学習の仕方についても、活動を通して学習することができた。また、日本文化体験では、本校のランチルーム和室を使い、茶道クラブの先生にお願いして、事前に作法を学んだ。そうした活動によって児童の課題発見能力、問題解決能力を高めることができた。また、セカンドスクールの目的意識をもたせることができ、見通しをもたせること、体験活動への意欲を高めることもできた。

事後学習では、セカンドスクールで発見した課題についてまとめを行い学習してきたことを最大限に生かしてまとめさせた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・加工食品体験では、活動によって児童が体験できる内容が少なかったりするなど、場所の設定を含めて体験を増やす必要があると感じた。
- ・クラフト活動は、雨天プログラムとして計画を変更したため、クラフトのキットの手配では、工房に無理をお願いすることになった。次年度は、雨天時も想定して手配等を早める必要がある。
- ・テーマ活動では、三日間の日程の中で、全グループが3つのテーマについて体験したが、日によって活動に差があったり、活動場所の途中変更があったりしたので、今後、事前の打ち合わせで確認していく必要がある。

大野田小学校

9月22日～9月28日(6泊7日)

○日程表

9月22日(水)		9月23日(木)		9月24日(金)	
7:30	学校集合、出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
8:00	出発		洗面、寝具整理		洗面、寝具整理
12:00	昼食、休憩(小布施PA)	6:45	朝食準備	6:45	朝食準備
13:20	戸狩到着、開校式	7:00	朝食、片付け、活動準備	7:00	朝食、片付け
13:50	各宿舎着、荷物整理、避難訓練	9:00	宿別体験活動1	8:00	活動準備
15:00	はし作り	12:00	昼食、片付け	9:00	課題別学習1
16:00	民宿の方との話し合い	13:00	散策準備	12:00	昼食、片付け
17:00	健康観察、入浴	13:30	ブナの森散策	13:00	和紙すき体験・伝統産業会館 見学・ふるさと館見学・飯山 市内めぐり(寺院)
18:00	夕食、片付け	15:00	宿舎着	16:00	宿舎着、課題別学習まとめ
19:00	今日のまとめ	16:00	民宿周辺散策	17:00	健康観察、入浴
20:00	語らいの時間	17:00	健康観察、入浴	18:00	夕食、片付け
20:40	就寝準備、健康観察	18:00	夕食、片付け	19:00	今日のまとめ
21:00	消灯	19:00	今日のまとめ	20:00	語らいの時間
		20:00	語らいの時間	20:40	就寝準備・健康観察
		20:40	就寝準備、健康観察	21:00	消灯
		21:00	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習の内容

- ・4年生3学期・・・「総合的な学習の時間」で現6年生からセカンドスクールについて発表してもらい、戸狩の様子や活動の内容について教わった。これを機にセカンドスクールへの興味関心を高めた。
- ・5年生1学期・・・「総合的な学習の時間」で「調査・体験ふれあい in 戸狩」として調べ学習を計画、課題別グループを作り、学年全体で事前学習を進めた。また、社会科見学での学習を生かし、雪の多い地方の特色、農業についての理解を深め、実際に苗を送っていただき、バケツで稲を育てながらさらに関心を深めた。
- ・5年生2学期・・・課題別学習のグループで事前調査のまとめを進めながら、宿別グループを作り、係活動の分担を決めたり、期間中のそれぞれの活動への理解を深めた。指導員との交流の場ももった。

長野県飯山市戸狩

参加人数 男子79名 女子55名
計134名

9月25日(土)		9月26日(日)		9月27日(月)		9月28日(火)	
6:00	起床、健康観察 洗面、寝具整理 朝食準備	6:00	起床、健康観察 洗面、寝具整理 朝食準備	6:00	起床、健康観察 洗面、寝具整理 朝食準備	6:00	起床、健康観察 洗面、寝具整理 朝食準備
7:00	朝食、片付け	7:00	朝食、片付け	7:00	朝食、片づけ	7:00	朝食、片付け
8:00	掃除、活動準備	8:00	ハイキング準備	8:00	活動準備	8:00	大掃除
9:15	稲刈り、はぜかけ	9:00	高社山ハイキング	8:30	脱穀		荷物整理
11:00	もちつき	11:45	昼食	9:30	宿別体験活動2		宿の方へのお礼、 あいさつ
12:00	昼食、片付け	14:25	ハイキング終了	12:00	昼食、片付け		
13:30	課題別学習2	15:30	宿舎着	13:00	課題別学習まとめ	9:15	集合、閉校式
15:30	課題別学習まとめ	16:30	健康観察、入浴	14:30	お別れ会準備	9:30	戸狩出発
16:30	宿舎着	17:30	夕食準備	16:00	お楽しみバーベキ ュー準備	11:45	昼食、休憩(横川S A)
17:00	健康観察、入浴	18:00	夕食、片付け	18:00	夕食、お楽しみバー ベキュー、	13:25	
18:00	夕食、片付け	19:00	今日のまとめ	19:00	片付け	14:30	休憩(高坂SA) 学校着
19:00	今日のまとめ	20:00	星空観察	20:00	お別れ会		帰校式
20:00	語らいの時間	20:40	就寝準備、健康観察	20:40	健康観察、入浴		解散
20:40	就寝準備、健康観察	21:00	消灯	21:30	就寝準備、消灯		
21:00	消灯						

② 事後の学習の内容

- ・帰校後、現地での体験を作文に書いたり新聞にまとめたりした。期間中によんだ俳句は学校だよりに紹介された。また、お世話になった方に(看護師さん他)へお礼の手紙を書いた。
- ・課題別学習グループごとに、事前学習、期間中の体験や成果について話し合い、発表に向けて準備を進めている。(4年生への「伝えよう、セカンドスクール」の発表会は12月)また、掲示物としてまとめ、校内、保護者に向けて紹介した。
- ・現地での農業体験で収穫したお米は家庭科の調理実習で活用した。
- ・社会科(産業)、国語(方言)などほかの教科の学習に関連させて体験を広く活用している。

○特色ある活動内容

<課題別学習>

本校では、セカンドスクールを5年生の「総合的な学習の時間」の学習活動の中心として位置付け、児童の主体的な取り組みを促し、自分を見つめる力、問題解決能力を高める機会として重視している。特にその中でも課題別学習では、各自の興味関心を中心に課題を設定し、戸狩への理解を深めるという視点で学年で話し合いながら課題を整理、十分検討した上でグループの課題を決めている。従って児童は十分課題について理解した上でグループを形成し、調べ学習を進めることができる。

ファーストスクールとしては、事前の調べ学習、現地関係諸機関への問い合わせを行い、事後では、まとめと発表の時間設定に配慮している。その基盤の上に、セカンドスクールでの現地学習、フィールドワークが支えられると言える。夏季休業中も児童の自主的な調べ学習や資料収集が進められ事前学習の充実を図ることができた。保護者の協力も得られた。

また、観光協会を通じて、事前に知っておきたい情報を各宿の協力を得て教えていただいたり、要望やお願いをお知らせしたりして連携を深めることができた。

課題別学習の現地講師は例年宿泊先の宿元の方をお願いしている。本校のこの活動に賛同し、毎年快く指導していただいている。年によって児童の興味関心が変化してくるが、いつも柔軟に対応して下さる。

今年度の課題別学習は以下の10グループである。

- 1、草花・虫 … 戸狩の草花や虫の観察、スケッチ など
- 2、川 … 千曲川周辺の地理や様子、水温、住む魚や生き物、西大滝ダム など
- 3、リンゴ … 戸狩での農家の取り組み、畑の様子、加工食品 など
- 4、米作り … 水田の様子、棚田、農家の工夫、品種の違い、特色 など
- 5、歴史 … 飯山の歴史、寺社の歴史、城下の様子、史跡めぐり など
- 6、農業・特産物 … 戸狩地区の農作物の種類について、野菜の集荷場の見学 など
- 7、ブナの森 … ブナの木を観察、森林の散策、自然中でブナの木が果たす役割 など
- 8、伝統工業 … 飯山の伝統工芸品について、歴史、お店の見学 など
- 9、観光 … 飯山の観光地、集客の工夫、温泉地の様子、市役所の観光課の方の話など
- 10、雪国の暮らし … 家屋の工夫の様子、街中での工夫、行政の取り組み、人々の声など

各グループで、課題に応じた活動内容を計画し、場合によって戸狩にとどまらず、飯山市内各地に足を運び、児童の関心に応える見学先、体験を準備していただいている。(移動の際にはマイクロバスが有効であった。)



【農業・特産物】

<自然体験活動>

1、高社山ハイキング

直接自然に親しむ活動場面としては、高社山ハイキングとブナの森周辺散策を実施した。ハイキングについては昨年、場所を変更し、安全面での不安を解消、同時に山登りによる達成感を児童に味わわせる目的で今年も計画した。天候不順により2日目から5日目に日程を変更したが、当日は天候に恵まれ、当初のねらいを十分達成することができた。

冬季はスキー場であるが9月は山菜取りもできる豊かな自然に囲まれ、植物も動物も直接身近に感じることができ、途中から周辺地域の地形を一眺できるポイントもある。実際の景色から北信濃の様子を学ぶことができた。山頂からは戸狩地区を一望し、自分達が活動している地域全体を見渡して感動する児童がいた。ただ、水筒のみでは水分補給が十分でない場合も天候によっては生じる心配があるが、適切に対応し、安全に下山した。

2、ブナの森散策

ブナの森周辺の散策は、飯山の自然の特色であるブナの木について知る貴重な機会となり、森林の果たす役割を体感するよい活動となっていた。小雨の降る天候だったが、コース変更が容易だったため、児童の健康・安全面に配慮しながら歩くことができた。宿元の方々に講師を依頼し、他の動植物について説明してもらいながら散策を楽しむ児童の姿が多く見られた。

<宿別体験活動>

この活動も戸狩ならではの体験ができる本校の特色の一つである。各宿舎の宿元の方々が、長年の経験を生かし、それぞれ得意な分野での活動内容を計画し、毎年少しずつ工夫を重ねて準備して下さっている。事前にアイデアを出し合い、連絡を取り合いながら、児童が宿元の方々と交流を深めることができるように配慮した。今年は、ハイキングの日程変更に伴い、5日目から2日目に変更し、1回目を実施。急な変更にもかかわらず、宿元の協力で、児童と早めに交流でき、宿のまとまりができたと好評であった。



【わらじ作り】

活動内容・・・ジャム作り、焼板工作、うちわ作り、さつまいも堀り、野菜収穫 など

<学習体験活動>

1、農業体験(稲刈り、脱穀体験)

社会科で1学期に「米作り」については学習しているが、実際に、田んぼに足を踏み入れ、鎌を手に持ち体で感じる機会を持つことはセカンドスクールならではの活動である。今年は全員が体験できた。この活動も天候による日程変更をしたが、宿元の方々の協力でスムーズに実施することができた。



【農業体験】

2、飯山の伝統工業見学・和紙すき体験

伝統産業会館では、飯山の歴史と文化を象徴する伝統工芸品である飯山仏壇と内山和紙について学ぶことができた。地理的要所であったこと、自然条件に恵まれたことで盛んになったこの技術のすばらしさについて見学し、そして隣接する工房で児童全員が手すき和紙作りを体験した。短時間であったが、はがき作りを学び、一人一人が自分の工夫を加えたはがきを作って、期間中に完成品を届けてもらうことができた。

また、ふるさと館では、飯山に暮らす人々の生活史を道具や映像資料を通じて知ることができた。地方の生活を知ること、自分達の住む武蔵野市に思いを馳せる児童もいて、社会科学習としても有意義な活動になった。

3、市内めぐり(寺社を中心に)

児童を3つのグループに分け、実際に町の中を歩きながら、飯山の様子を直接見る機会を作った。「寺の町」として有名で、昔からの街道筋に沿って多くのお寺が並んでいる。身近に歴史を感じながら人々が暮らしている様子が、実際に歩いてみると理解できる。自分達の町と比べてどんな特徴があるか観察しながら歩くことができた。

○児童の感想

- ・はし作りや宿別体験で郷土料理を作るなど、自分でやることが大変でしたが、だんだんと面白くなり、とても楽しかったです。
- ・ブナの森や高社山のハイキングは、歩くのが疲れたけれど、みんないっしょだったので何とかがんばれました。眺めがよかったこと、ブナの木にさわれたことなどよく覚えています。
- ・課題別学習では、本やインターネットで調べていた時はもうわかったと思っていましたが、実際に戸狩の山で虫をさわったり、花を見たりしてみるとやっぱりいいなあと感じました。
- ・夏休みに戸狩の植物や生き物について調べていました。川に行ったら、めったに見られないクロサンショウウオを見ることができました。自由研究をやっていたよかったと思いました。
- ・民宿のおとうさん、おかあさんには本当にお世話になりました。また泊まりにいきたいです。
- ・指導員さんにはよくめんどろを見てもらいました。ありがとうございました。

○保護者の感想

- ・1週間の不在は親にとってもよい経験になりました。親子関係を見直す機会になりました。
- ・お友達に迷惑をかけていないか心配でしたが、無事に帰ってきてホッとしました。
- ・時間が経つにつれて、とてもよい思い出だったようで、楽しそうに話している様子が親にして嬉しいです。
- ・いろいろな方々にお世話になり、ありがとうございました。

○総合的な学習の時間との関連について

セカンドスクールの事前学習、準備活動、期間中の活動、事後の学習活動を総合的な学習の時間として位置付けるようほかの活動計画の時間、他教科の計画見直しを含めて調整した。

限られた時間の中で、活動を実施するには計画の段階で、十分な検討と工夫を要する。学年で時間割をすり合わせ、打ち合わせを十分にすると共に、発表の機会も適切な時期、形式を事前に決めておく必要がある。学校全体の教育計画作成の際に共通理解を図っておくようにしたい。

○プレセカンドスクールの効果が見られた点

本市の児童は4年生で宿泊行事を体験しているので、集団での活動に共通理解をもって長期間の宿泊に臨むことができる。現地での生活に対する不安はあっても、比較的スムーズに慣れ親しむことができた。気持ちの面で不安定になる児童が少ないと思われる。

○次年度に向けての反省・課題

- ・長期間の宿泊で最も配慮を要するのは健康面である。保健調査という形で事前に家庭からアレルギーや生活習慣についての情報は得ていたが、家庭によっては喘息の既往歴が明記されていないなど記載内容が不十分であった。喘息を発症する児童が多発し、対応に苦慮した。保健調査表の項目を見直し、より詳細に児童の健康状況を把握できるように保護者に協力してもらった。個人情報管理を徹底する旨を伝えつつ、適切な医療処置を受けるためには児童の健康に関する情報はきちんと提供してもらいたい。
- ・指導員の事前研修に今回力をいれ、その役割の重要性を十分認識させ仕事をしてもらった。だが、本校のように分宿の場合、やはり各宿に男女1名ずつの配置が望ましい。2名配置の宿がやはり安定した活動ができていたと感じた。
- ・看護師の配置も本校のように児童が100名を越し、活動場所が分散している場合、複数配置を望みたい。管理職も対応に奔走し、期間中は大変多忙な状況である。
- ・予算面で厳しい昨今であるが、ハイキングでの水分補給用ペットボトル、お別れ会での現地写真撮影のプリント代など現地交渉や工夫で金額的に抑えられる余地もあるので是非計上してほしい。
- ・日程変更の場合、祝日や土・日の休日が絡んだ時、設定に苦慮することがある。事前の雨天計画作成の際に、関連施設の休館や会場の予約状況等十分情報を得ておく必要があると感じた。
- ・観光協会、宿舎である宿元との連絡を密にし、十分なコミュニケーションのとれる関係づくりが大切と思い、実踏から積極的に話し合うようにした。また、学校から先に提案したり必要な情報を早めに提供して理解を得る努力をした。次年度もこうした姿勢で臨んでいきたい。
- ・保護者の自己判断で児童を現地に直接連れて来てしまう事、体調不良児童の引き取りに即応してもらえない例など事前の保護者への理解、協力を求めておくことが必要とされる。

境南小学校

9月16日～9月22日(6泊7日)

○日程表

9月16日(木)		9月17日(金)		9月18日(土)		9月19日(日)	
7:30	学校集合	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
7:40	出発式	6:45	朝会	6:45	朝会	6:45	朝会
8:00	学校発	7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食
11:45	東部湯の丸SAにて 休憩・昼食	9:00	わら細工作り	8:30	とんだいら ハイキング (現地で昼食)	8:30	稲刈り (宿で昼食)
13:30	飯山市戸狩着	12:00	昼食			14:30	脱穀
13:50	開校式	14:00	体育館で体力作り				
14:00	各民宿へ	15:30	近辺散策				
15:00	近辺散策	16:00	夕会	16:00	夕会	16:30	夕会
16:30	入浴	16:30	入浴	16:30	入浴	17:00	入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
		19:30	民話を聞く会	19:30	星空観察	19:30	絵手紙をかく
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・「育てよう米」というテーマの総合的な学習の時間に、実際に牛乳パックに種もみから稲を育てる体験活動を行った。初めは、種もみがスズメに食べられたり、水の量が多すぎたりして失敗続きだったが、試行錯誤を続けていくうちに順調に成長し、夏休みには自宅に持ち帰って観察記録を作成した。量は少なかったがほとんどの児童の稲は無事に穂をつけ収穫することができ、セカンドスクールの稲刈りの体験につなげることができた。
- ・1学期末に学年全体でセカンドスクールの体験活動について事前のレクチャーを行った。内容は、飯山市の地域的な特徴や米作りやきのこ栽培などの産業の特色、伝統食およびブナ林のしくみについてである。それをもとに、各自で自由にテーマを選び、夏休みの自由研究などで調べ学習を行った。特に、武蔵野市との違いに目を向け、気候や地形と産業など人の営みとの関係を比較しながらとらえる視点を大切に学習をすすめることができた。
- ・1学期の理科の学習で「川の水のはたらき」の学習を実施した。そこで、千曲川を取り上げ、川の水のはたらきや流れの特徴、川の流れと地形との関係、洪水や治水の歴史について、各自でテーマを決めて、インターネットで調べてまとめる活動を行った。

長野県飯山市

参加人数 男子46名 女子47名
計93名

9月20日(月)		9月21日(火)		9月22日(水)	
6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
6:45	朝会	6:45	朝会	6:45	朝会
7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食
		9:00	戸狩小との交流	9:00	閉校式
11:00	もちつき	11:00	笹寿司作り	9:30	飯山発
13:00	ブナ林散策	13:00	民宿大掃除		
15:30	千曲川見学	14:30	近辺散策	15:00	学校着
		15:30	お別れ会の準備	15:15	帰校式
16:30	夕会			15:30	解散
17:00	入浴	16:00	入浴		
18:00	夕食	17:00	夕食		
19:30	お別れ会準備・練習	19:00	お別れ会		
21:00	就寝	21:00	就寝		

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクール終了後、まとめのために「セカンドスクール新聞」作りを行った。その中で、楽しかった思い出をつづるだけでなく、宿泊体験学習としてのまとめも書くように指導した。
- ・その新聞の中で、児童は、稲刈りやブナ林散策、戸狩小との交流、伝統食作りなどについて分かったことや感想を記録することができた。特に、稲刈り体験は、前日までの雨のせいで田んぼがぬかるみ、足を取られてとても大変だったので、強い印象が残ったようである。
- ・セカンドスクール新聞を互いに見せ合う活動の後、その内容について簡単な発表会を実施し、学習の成果と感想を交流することができた。
- ・お米の学習の発展として、「お米マイスター」の授業（お米に詳しい地域のお米屋さんをゲストティーチャーとして招く授業）を行い、お米に関するさまざまな話と、すり鉢を使って精米する実技演習を行った。
- ・お米の利用と食料自給率に関連して、米粉の利用について学習した。その発展として、米粉を使った料理の実習授業を行うことになった。元栄養士の方を招いて、12月に学級ごとに米粉でクレープを作る計画を立てている。
- ・3学期には、現4年生に対して、セカンドスクールについて伝える会を開く予定である。内容については今後検討していく。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、とんだいらハイキング

3日目、民宿の方々の案内で、冬は戸狩スキー場となるとんだいらまでハイキングに出かけた。前日までは雨模様の天気が続き、子どもたちも身体を動かしたくてうずうずしていたが、この日は、朝から快晴。暑いくらいの日差しが照りつけていた。

スキー場をそのまま途中まで登り、振り返ると戸狩地方の盆地が開け、反対側には野沢温泉のスキー場、山麓には、赤いトタン屋根の集落と黄金色に色づいた田んぼが広がり、その中央を縫うように千曲川が輝いているのが見えた。

スキー場頂上にあるとんだいらのくぼ地に着く。注意事項と約束を確認してから、子どもたちは、めいめい自由に遊び始めた。くぼ地のため、行動範囲はある程度限られるが、広い野原や傾斜地があり遊ぶにはうってつけの場所である。登ってくる時は、疲れた疲れたと言っていた子どもたちも、遊び始めると途端に元気になり、思い切り身体を動かして工夫して遊んでいる。かなりの角度の傾斜地をどんどん登ってころがって遊ぶ子。拾った木の枝をバットの代わりにして野球を始める子。広い野原で鬼ごっこをする子。時間もたっぷり、場所も広々。こうした自然の中でのびのび遊ぶ時間というのは、武蔵野の日常生活では、案外ないのかもしれない。

帰り道、くたくたになりながらも、子どもたちはどこか楽しげで満足そうであった。



【戸狩スキー場中腹から見た田園風景と千曲川】

2、星空観察

3日目の夕食時、雲が引いて星空が現れた。今日こそは、と延期されていた星空観察を実施した。民宿の方が天体望遠鏡を用意してくださり、準備は万端。ところが、いざ、始めようとすると、急に雲が現れて全天の観察は難しい状況に……。それでも、雲の透き間から、ほぼ満月の月と木星が観察できた。児童1人1人順番に天体望遠鏡で観察をする。月の余りの明るさに驚く子やクレーターの様子がはっきり見えたと興奮する子どもたちもいた。

そうしているうちに奇跡的に雲が少し晴れてきて、ほぼ全天が星に覆われた。そこで、全員が駐車場に仰向けに寝転がり、暗闇の中5分間、静かに黙ったまま全天を観察し、耳を澄まし、自然の神秘と荘厳な気持ちを味わうことができた。東京では味わうことができない満点の星空。ほんの少しの時間だったが、子どもたちにとっては、忘れられない、とても貴重な体験になったようである。

<学習体験活動>

1、1日農業体験

4日目、雨のため延期になっていた稲刈りを行った。実際に田んぼに行く前に、駐車場に集合し、衣類のチェック。長靴は戸狩の観光協会を用意してくれたものを履き、帽子をかぶり、長ズボンに長袖、軍手に首にタオルを巻くといういでたちだ。次に、鎌の扱い方。危険のないようにしっかり話を聞いていざ出発。天気もよく、田んぼは鮮やかな黄金色に色づき、稲刈りには最高の条件、と始めは喜んでいたら、民宿の方の指導の下、実際に稲刈りを始めてみるとなかなか大変だった。

まず、田んぼが前日までの雨でかなりぬかるんでいたため、長靴を田んぼに取られて動けなくなってしまった子どもがたくさんいた。何とか引き抜くと今度は反対の足が取られる、といった状況で、あちこちで泥だらけになる子が続出。しかも、思いのほか日ざしが強く、長袖長ズボンの子もたちにとっては暑くて作業が大変だった。まあ、この大変さも貴重な経験、と頑張るが、1時間ほどで休憩を取らざるを得なかった。皆ズボンも軍手も泥だらけ。急ぎよ、給水タンクで手を洗い、リンゴとさつまいものおやつを食べた。昼食まではまだ時間があったので、これは本当に助かった。

その間に民宿の方々が泥のやわらかい場所の稲をコンバインで刈ってくれた。仕事再開。全員で協力して何とか残りの部分の稲を全部刈り、はぜ掛けと落穂拾いを済ませたときには全員ぐったりと疲れ、全身泥だらけであった。まさに農作業の大変さを肌身で感じた本当に貴重な体験となった。

午後は場所をトピアホールの軒先に移して、昔の脱穀の方法を体験した。千歯こきと足踏み脱穀機の体験と稲についてのお米が何粒あるか数える作業をクラスごとに交代で体験した。手間隙掛けた米作りの大変さを実感するとともに、昔の人々の知恵を感じることができた。

2、ブナ林散策



【ブナ林の中でガイドさんの説明を聞く】

5日目午後、雨が上がり、民宿からマイクロバスで30分ほどかけて鍋倉山のふもとにある茶屋池付近にブナ林散策に出かけた。

現地では、6つのコースに分かれ、森林ガイドの方に散策コースを案内していただいた。

ブナの森に入ると、地面がフカフカしていて柔らかい。雑木林の根が張り巡らされ、空気と水をたくさん含んだ栄養たっぷりの土だ。ブナの葉や実の特徴、森で生きる動物たちの生態、豊かな広葉樹林が「緑のダム」と言われるゆえん、そして、人間と森のつながり。

こうしたガイドさんの説明を、実際に森を歩

きながら聞くことは、教室ではできないとても貴重な学習だ。

そうして、1時間ほど歩いていると、どこからともなく霧が出てきた。霧に包まれた深い森の中の幽玄な風景。子どもたちの心の中に、強い印象を残したようである。

<生活体験活動>

1、伝統食作り

セカンドスクールでの子どもたちの楽しみの一つは食べることである。特に飯山はお米がおいしく、普段食の細い子も、ご飯をおかわりしている姿が見られた。

そのお米を利用した北信地方に古くから伝わる郷土料理の一つが「やしょうま」である。「やしょうま」は米粉を湯で練って固めてから蒸したおやつである。本来はよもぎなどを混ぜて色付けを行うが、これは宿でまちまち。また、蒸したものをそのまま食べても良いが、少し焼いて食べても香ばしい。子どもたちは自分で練って作ったやしょうまを、砂糖醤油につけておいしそうに食べていた。

また、同じくこの地方に伝わる郷土料理の一つが「笹寿司」である。熊笹の葉の上に酢飯を乗せ、その上にワラビやゼンマイなどの山菜やクルミ、卵焼き、紅しょうがなどを乗せて食べる。6日目の昼食として子どもたちはそれぞれオリジナルの笹寿司を作って食べた。好きなものを選んで乗せることができ、とてもおいしいと子どもたちも満足であった。

さらに、きねと臼を使つての餅つきを実施し、一人ひとりがきねを持って餅をついた。都会ではふだんなかなかできない体験であった。

<地域の人々とのふれ合い>

1、戸狩小との交流

6日目に飯山市立戸狩小学校との交流を実施した。戸狩小では3日前に運動会が終わったばかりだったが、快く受け入れてくれた。

昨年度の反省を受け、互いに事前の準備や練習が負担にならないようにプログラムを考え、簡単な学校紹介と学級リレー、ドッジビーで交流を実施した。リレーでは、県内3位という戸狩小の実力を目の当たりにし、境南の子どもたちにはとても良い経験となった。

交流の終わりに、互いに握手をしたが、とても打ち解けた様子で、短時間に少し話ができ子どももいたようである。互いに無理をしない範囲で交流を末長く続けていくことが大切だと感じた。



【戸狩小との交流でドッジビーを楽しむ】

○児童の感想

- ・私の一番の思い出は稲刈りです。始めは、「よし、やるぞ。」と張り切っていましたが、刈るのは簡単でも、たばねるのがとても難しいし、腰は痛いし、田んぼはどろどろで長くつがうまって動けなくなるし、暑くてのどがかわくし……とにかく、すごく大変でした。でも、みんな協力して、全部の稲を刈って、はぜかけした後、きれいになった田んぼを見て「やったあ。」と思わず声が出てしまいました。とても貴重な体験でした。これからはお米を食べるときに、この体験を思い出しながら食べたいと思います。

- ・とんだいらハイキングは最高の思い出です。スキー場を登るときは、何度も「疲れた。」「まだ着かないの。」とNGワードを何回も言ってしまいました。でも、登る途中で見た戸狩の景色がとてもきれいで感動しました。田んぼが広がり、初めて見る千曲川はキラキラ輝いていました。頂上のとんだいらに着くと、天気はいいし、きれいな原っぱはあるし、空気もきれいで最高でした。友達とたくさん遊んで大満足です。帰りは友達と歌を大声で歌いながら山を下りました。後で、宿のお父さんたちが、おいしいおにぎりや麦茶を運んでくれたり、とんだいらの草を刈ってくれたりしたことを聞きました。本当に感謝しています。
- ・ブナ林の散さくが、一番印象に残っています。どうしてかというと、ガイドの方がとてもていねいに森のことを教えてくれたからです。ブナの木の本葉っぱの特ちょうや森の役わりなどを知ることができてよかったです。フキの茎をなめるとあんなに苦いなんて知りませんでした。二日よいにきくというので、今度お父さんに教えてあげたいです。

○保護者の感想

- ・始めは心配していましたが、「楽しかったよ。」と、笑顔で元気に帰って来てくれてよかったです。よほど楽しかったのか、次から次へといろいろなお土産話をしてくれました。でも、そのあとすぐに寝込んでしまいました。やはり相当疲れていたのですね。
- ・たくさん楽しい思い出ができたようです。大変だった稲刈りのことや星がとてもきれいに見えたこと、宿のご飯がとてもおいしかったこと、などなど……。それなりに自分のことは自分でできたようです。宿の方や指導員の方、先生方にもたくさんお世話になったようです。本当にありがとうございました。リュックサックを開けたら、予想していたよりも荷物がきちんと整頓されていてびっくり。親も気づかぬうちに少しずつ成長しているのですね。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・行事としてカウントしたのは、往復の移動とお別れ会、民宿大掃除、および開校式などの会式。それ以外の活動 30 時間については、すべて総合的な学習の時間として実施した。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

- ・バスの乗り方に慣れたこと、および、バス酔いへの不安の解消。
- ・学年全体での集団行動、たとえば、班ごとの集合のしかたと並び方、人数確認の方法、集団で自然の中を歩くときの注意などに前年の経験が生かされた。
- ・宿での生活（就寝や起床、検温、食事、入浴、洗面など）の約束について、前年に注意した基本的なことがらを確認することができた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・実地踏査の際、雨天対策プログラムの内容を十分に考えておく必要がある。
- ・生活指導員は、宿に 2 人ずつ確保したい。今回は、指導員が全部で 9 人で、宿が 6 軒だったため、指導員が 1 人の宿と 2 人の宿が出てしまい、仕事の負担が全く違うものとなってしまった。期間も長く、大変な仕事であり、指導員個人の力量の差を埋めるためにも複数いた方がよい。また、男女で 1 人ずついた方が、体調管理や夜尿の児童への対応など都合が良い。

本宿小学校

9月28日～10月5日(7泊8日)

○日程表

9月28日(火)		9月29日(水)		9月30日(木)		10月1日(金)	
8:30	学校出発 練馬IC 上里SA 東部湯の丸PA 昼食 豊田飯山IC	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
		7:30	朝食 片付け・準備	7:30	朝食 片付け・準備	7:30	朝食 片付け・準備
		9:00	泉台小との交流会 全体交流 グループ交流	9:00	泉台小と合流 能生へ出発 10:30 能生漁港見学	9:00	黒岩山ハイキング 11:00 昼食
13:00	信濃平到着 開校式	11:30	昼食〔各民宿〕	12:00	昼食	12:00	下山
13:30	民宿着	12:30	泉台小5年生との 交流・農業体験 (稲刈り・脱穀)	13:00	上越水族館見学	13:00	農作業体験 各民宿にて
14:00	もちつき 箸づくり	15:00	おやき作り	15:10	泉台小到着 交流会閉会式		
16:00	農村散策	16:00	農村散策	16:15	農村散策	16:00	農村散策
17:30	夕食準備	17:30	夕食準備	17:30	夕食準備	17:30	夕食準備
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	入浴 学習の記録 明日の準備	19:00	入浴 学習の記録 明日の準備	19:00	入浴 学習の記録 明日の準備	19:00	入浴 学習の記録 明日の準備
20:00	民宿の方や友達との 交流	20:00	民宿の方や友達との 交流	20:00	民宿の方や友達との 交流	20:00	民宿の方や友達との 交流
21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・訪れる信濃平の位置や土地の様子などを学習する。
- ・課題別体験学習に向け、飯山の自然や産業・暮らしの様子などから調べてみたいことを挙げ関心のあるテーマを決めてグループ作りを行う。
- ・課題別学習のグループごとに事前に、本やインターネット、パンフレットなどを用いて調べ学習をし、自分たちが調べたい課題を作る。
- ・泉台小学校と自己紹介カードの交換をする。また、交流会で行う発表の練習をする。
- ・お世話になる民宿の方に自己紹介カードを書いて送る。
- ・生活指導員の方と顔合わせをし、グループごとにセカンドスクールのめあてを話し合う。

長野県飯山市(信濃平地区)

参加人数 男子30名 女子18名
計 48名

10月2日(土)		10月3日(日)		10月4日(月)		10月5日(火)	
6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
7:30	朝食 片付け・準備	7:30	朝食 片付け・準備	7:30	朝食 片付け・準備	7:30	朝食 片付け・準備
9:00	駐車場集合	8:20	駐車場集合	9:00	蕎麦打ち体験	8:00	荷物整理
9:30	飯山の町ウォーク	9:00	森の家到着		笹ずし作り(各宿)		大掃除
11:00	昼食		ブナの森ハイキング	11:30	昼食	9:00	柿の収穫
12:00	課題別グループ 体験調査活動		伐採見学 枝打ち体験	12:30	駐車場集合		干し柿作り(各宿)
15:45	飯山伝統産業会館 集合・出発	12:00	昼食	13:00	きのこ工場見学	10:45	宿の方へのお礼
16:15	鈴荘前集合	13:00	木のクラフト作り	14:00	きのこ工場出発	11:00	駐車場集合
17:30	夕食準備	15:00	森の家出発	15:00	草木染め体験		閉校式
18:00	夕食	16:00	農村散策	16:00	農村散策		信濃平出発
19:00	入浴 学習の記録 明日の準備	17:30	夕食準備	17:00	入浴		豊田飯山IC
20:00	民宿の方や友達と の交流・お楽しみ会 準備	18:00	夕食	17:30	学習の記録		佐久平PA(昼食)
21:00	健康観察・就寝	19:00	入浴 学習の記録 明日の準備	18:00	夕食準備		高坂SA
21:30	消灯	20:00	民宿の方や友達との交 流・お楽しみ会準備	19:00	夕食	16:00	練馬IC
		21:00	健康観察・就寝	20:00	お楽しみ会の準備		学校到着
		21:30	消灯	21:00	お別れお楽しみ会		帰校式
				21:30	消灯		解散

② 事後の学習内容

- ・課題別学習のグループごとに自分たちが見学したり、体験したりして調べてきた内容をまとめ、保護者も招いての発表会を行う。後日、4年生にも紹介する。
- ・8日間の体験や生活を振り返り、作文にまとめる。
- ・社会科や理科の学習の際に、現地で体験してきたことや学習してきたことを振り返り、学習の参考資料とする。

○特色ある活動内容

<課題別体験学習>

昨年度に引き続き、今年度も課題別体験学習を行い、飯山の町や信濃平の自然の中で自分たちの課題についてグループごとに調べたり体験したりして学習を進めることとした。総合的な学習の時間の中で、自分たちの課題をもち、それを実際に現地で調べたり、体験したりしてすることで、より意欲的に問題解決に取り組むことができた。課題作りは飯山や信濃平はどんなところかを本やインターネット、パンフレットを使って調べ、その中から興味を持ったテーマを挙げて、5種類のテーマで6つのグループを作った。また、それぞれの講師は民宿のお父さんやお母さん、観光協会の方をお願いした。

1、飯山の自然(2グループ)

信濃平周辺で、植物の観察やわき水の由来などを調べるフィールドワークを行った。飯山の四季の変化、自然の様子、地形など自然環境や自然とともに生きてきた飯山の人々の暮らしについて話してもらい、豊かな自然について改めて学ぶことができた。

2、郷土料理

当日は「ニラせんべい」「いもなます」の作り方を教えてもらい、実際に調理体験もさせていただいた。食料を上手に保管して、長期間食べられるような工夫が郷土料理にはあることなどを子どもたち学ぶことができた。

3、飯山仏壇

実際に仏壇工場に行き、仏壇を組み立てるところを見学させていただいた。たくさんの部品から作られていることを見学させてもらった。仏壇作りに携わる人の工夫や努力を実際に見て、聞くことができ、子どもたちには大変貴重な体験となった。

4、内山和紙

伝統産業会館にある和紙作りの体験工房で実際に紙すき体験をさせてもらった。和紙ができあがるまでの工程や和紙がさまざまに活用されていることなどをビデオで見たり、体験工房の指導員の方に質問したりして調べることができた。また、内山和紙保存会の方が紙すきをされていたので、様子を見せてもらったり、話を聞いたりした。その中で和紙の原料である楮の木などを見せてもらったり、三つ叉の和紙の紙すきを体験させてもらったりした。

5、雪国の工夫

飯山駅を訪れ、除雪車や大雪に対しての備えなどについて見学し、冬の飯山の暮らしと生活する人々の様子について学ぶことができた。

<自然体験学習>

1、黒岩山のハイキング

民宿の近くにある黒岩山でハイキングを行った。民宿のお父さんが講師となって、信濃平の地形の特色や、ブナの木やギフチョウなどの飯山の動植物についての話、桂池の話などをしてくださった。

＜学習体験活動＞

1、農業体験(稲刈り、野菜の収穫など)

稲刈り体験では、民宿のお父さん方に稲の刈り方と刈り取った稲の束ね方を教えていただき、作業を進めていった。その後、刈り取った稲を千歯こきや足踏み脱穀機を使って脱穀した。とうみなどの道具も使わせてもらった。昔の道具を使い、自分たちが普段食べている米ができるまでの作業の一端を体験することができた。農家の方がたくさんの手間をかけて米を作ってくれているおかげで自分たちが米を食べられることを感じるすることができた。

2、林業体験

5グループに分かれてインストラクターの方とともに活動した。人が手を入れることにより、森林の健康を保つことができることなどを、見学や体験を通じて学ぶことができた。枝打ち体験では実際にのこぎりを使って枝を切り落とす作業を行った。子どもたちが自然や環境について考えるよい機会となった。また、クラフト作りでは、午前中に切り落とした枝を使ったパチンコづくり、または、キーホルダー作りを行った。木の枝を使ったパチンコ作りでは、様々な大きさのパチンコを作ってアクリル絵の具でペイントし、杉の実を拾って飛ばして遊んだ。その中で自然の中にあるものを活用して工夫する楽しさを味わうことができた。

3、水産業見学

漁港見学では、魚の水揚げやいかの箱詰め作業などの様子を間近で見ることができ、働く人々の様子を見学することができた。これらの見学を通して、既習の社会科の水産業の学習の理解を深めることができた。

＜生活体験活動＞

1、郷土料理作り(そば打ち・笹ずし)

各民宿で、民宿のお父さんお母さんに教わりながらそば打ちと笹ずし作りに取り組んだ。子供たちは、そば粉をこねたり、薄く延ばしたり、打ったそばを細く切ったりとプレセカンドスクールの経験も生かして上手に、生き生きと体験活動に取り組んでいた。

また、郷土料理である笹ずし作りでは、郷土料理について教えてもらいながら作業を進めている班もあった。自分たちで作ったそばや笹ずしは、その日の昼食となり、子供たちは、美味しそうにほおぼっていた。

＜泉台小学校との交流＞

飯山市立泉台小学校の5年生と二日間の交流を行った。1日目は、午前中は交流会をし、互いの学校紹介や歌の合唱、グループ交流、ドッジボール大会を行った。その後、各民宿で一緒に昼食をとった。午後は稲刈りと脱穀の作業を行った。最初はぎこちなかった子どもたちも、少しずつ打ちとけてきて、一緒に作業に取り組み、別れる際は、「明日、会うのを楽しみにしているよ。」と言葉を掛け合う姿も見られた。

2日目はバスで一緒に新潟県能生方面へ行き、漁港や魚市場、上越水族館の見学をした。バスの中では、近くの席の子どもたち同士で楽しそうに話し、交流できた。さらに、閉校式を泉

台小の体育館で行い、学校内を見学させてもらった。

○児童の感想

- ・はし作りでは、竹を小刀で削って作り、難しかったです。何度も削るのを繰り返し、ささくれもなくなりました。できあがったはしを宿のお父さんに見せると「上出来です」と言われて、うれしかったです。
- ・もちつきは、杵で餅をつくときの感覚が良く、夢中になれました。また、どうしたら強くたたけるかをお父さんに尋ねてアドバイスをもらい、やってみると前より強くたたくことができ、満足した。
- ・バスからおりると、東京とはちがう空気を感じました。木に囲まれ、田んぼがきれいです。田んぼでカエルやイナゴをたくさん見つけました。
- ・高い所から下にある田んぼを見ると、とてもきれいでした。栗を取ったり、田んぼの周りでおにごっこをしたりしたのが楽しかったです。カエルやトンボに初めて触れて、嬉しかったです。
- ・森林体験は、インストラクターの方の説明が分かりやすく、ブナの葉の形の特徴や触るとかぶれるウルシの見分け方など色々なことを知ることができた。また、木の日当たりを良くするために丈夫に育っている木を残して、周りの木を切ることの大切さが分かった。
- ・稲刈りはお父さんや泉台小の人を見てやってみました。かまをのこぎりのように使うと、刈りやすかったです。今年は豊作だったので、稲を2回刈ったら手がいっぱいになりました。
- ・ハイキングでは、いろいろな絶景があったり、ミニロッククライミングをやったりして楽しかったです。ぼくの宿では、農作業体験でほったさつまいもを使って、『大学いも』を作りました。おいしかったです。
- ・お仏壇の店に行って、飯山仏壇の最高の値段が、なんと500万円もしました。その仏壇は10人くらいの手がかかっていることがわかり、意外でした。ぼくたちは、作っているところを見せてもらい、金箔をもらいました。
- ・大変なこともあったけれど、みんなと協力したり、話し合ったりすることは大切だと分かりました。また、ゲームをするのも楽しいけれど、自然の中でみんなと遊ぶのも楽しいことが分かりました。
- ・約1週間の長い時間の中、班のケンカもあったけれど、みんなで協力し合い生活ができた。みんなのちょっとしたことが集まると、大きなものになるということを学んできたような気がする。
- ・7泊8日の大きな存在、また大切さがわかりました。長い間生活してきた人とのお別れがこんなにも悲しいものなのだとことを知りました。

○保護者の感想

- ・7泊8日、自然の中で、様々な貴重な体験ができ、とても良かったと思います。セカンドスクールから帰ってきて、子供が少したくましくなったように感じています。

- ・セカンドスクールを通して、新しい友達ができたり、友情が深まったりしたようです。
- ・農作業の体験などを通して、食べ物を作る大変さを知り、食事で好き嫌いが減りました。

○総合的な学習の時間との関連について

課題別体験学習に向けて、課題づくりのために飯山や信濃平の自然・文化・産業について調べた。また、課題ごとにグループを作り、事前に下調べを行った。また、現地ではそれぞれのグループごとに課題別体験学習を行った。さらに、それぞれのグループで調べたことを学習発表会の形で発表して交流し合い、その様子を保護者にも参観していただいた。更に、前回の発表の反省点を改善したり、4年生にも分かるようにしたりして工夫し、来年セカンドスクールに行く4年生にも発表して紹介した。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

プレセカンドスクールでの生活や活動の経験があるので、セカンドスクールでの生活や活動にスムーズに入ることができた。また、自然の中で過ごす心地よさや遊ぶ楽しさをプレセカンドスクールで味わっているの、セカンドスクールも楽しみにし、心待ちにしている子が多い。

○次年度に向けての反省・課題

- ・昨年度に引き続き、課題別体験学習に取り組んだ。子どもたちの学習テーマに沿った講師を開拓し、現地での活動内容の充実を図りたい。そのために現地との連携をより密にし、準備を進める必要がある。
- ・一日のスケジュールに余裕を持たせて、日程を組んでいる。その中で、子どもたちは信濃平の自然の中で、蛙やバッタを捕まえたり、笹舟流しをしたりと自分たちで遊びを見つけていった。体調を崩す子どもも少なく、今後も余裕のある日程を組んでいく。
- ・信濃平地域が高齢化で民宿の閉鎖が相次いでいる。今後の実施に支障をきたさないように、早めに対策をとっておく必要がある。



【泉台小の児童と一緒に稲刈り】



【各宿での笹ずし作り】

千川小学校

9月25日～10月1日(6泊7日)

○日程表

9月25日(土)		9月26日(日)		9月27日(月)		9月28日(火)	
		6:00	起床、検温、清掃	6:00	起床、検温、清掃		1日、農家での生活体験。 稲刈り・枝豆の選別と袋詰め、さつま芋や落花生の収穫等、各農家の作業を体験する。
8:10	三鷹駅集合 出発式	7:00	朝食	7:00	朝食		
8:30	三鷹駅出発	7:45	朝の集い	7:45	朝の集い		
10:12	東京駅出発	9:00	玄関前集合	9:00	玄関前集合		
12:34	新潟駅出発	9:20	金峰山登山開始	9:15	仲間づくりゲーム		
14:30	鶴岡駅着	12:00	昼食	10:00	絵葉書制作		
14:45	到道博物館見学	12:45	下山開始	11:30	昼食		
16:00	金峰少年自然の家 開校式	15:30	宿舎着	12:15	宿舎発		
17:30	夕食	16:00	しおり記入	13:00	農業支援センター (農業についての 学習・宿泊先農家 との対面式) 農家毎に出発		
18:30	ナイトハイク	17:30	夕食	15:00	16:00以降は、各農 家の計画に従って の生活が始まる。		
20:00	入浴	19:00	天体観測				
20:45	健康観察	20:00	入浴				
21:00	消灯	21:00	消灯				
					(農家民泊)	(農家民泊)	

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・1学期…総合的な学習の時間(千川タイム)における「稲を育てよう・米について調べよう」と社会科「自然のめぐみをいかして」の双方の単元で、農業についての学習を進めてきた。特に、「稲を育てよう・米について調べよう」では、バケツ稲作りを通して稲作への興味・関心を深め、セカンドスクールでの学習に生かそうとした。
- ・2学期…民泊でお世話になる農家へ挨拶状を書いたり、4泊する宿泊施設での生活のイメージを作りあげようとした。また、セカンドスクールにおける係を決め、進んで仕事に取り組むことができるように意識付けをした。さらに、体験活動を通してどのようなことを学びたいか課題を明確にし、セカンドスクール以降の学校生活にどのように生かせるかを考えた。

山形県鶴岡市

参加人数 男子42名 女子26名
計68名

9月29日(水)		9月30日(木)		10月1日(金)	
6:00	起床、検温、清掃	6:00	起床、検温、清掃	6:30	起床、検温、清掃
7:00	朝食	7:00	朝食	7:30	朝食
7:30	各農家出発	8:10	集合・出発	8:30	大掃除・出発準備
8:30	農業支援センター (お別れ式)	9:00	体験学習 ・御殿まり作り ・絵ろうそく作り ・クラゲの学習会	9:00	閉校式
9:00	いでは文化記念館へ出発			9:30	宿舎発
10:00	羽黒山で山伏修行体験 ・峰入り式 ・羽黒山抖そう ・壇張り ・滝打ち ・出生式	12:00	昼食	9:40	致道館見学 ・論語の素読体験
16:30	宿舎着	13:00	体験学習 ・御殿まり製作 ・絵ろうそく制作 ・クラゲの学習会	10:52	鶴岡駅出発
17:30	夕食	16:00	宿舎着	13:10	新潟駅出発
19:00	入浴	16:30	体験学習のまとめ	15:20	東京駅着
20:00	学習整理・しおり記入	17:30	夕食	16:14	三鷹駅着
21:00	健康観察・消灯	19:00	入浴	16:20	解散式
		20:00	荷物整理		
		21:00	健康観察・消灯		

② 事後の学習内容

- ・お礼の手紙を清書して、全員分をまとめ、お世話になった方々へ郵送するようにした。分担を決めて書くようにした。
- ・千川タイムでは、農家民泊で学習したことをグループ毎にまとめた。まとめ方は一枚の用紙に図や文章を入れ、なるべく簡潔に、且つ行ったことのない人にもわかるようにまとめるように指導した。まとめた作品は学校公開時にふれあいホールで発表した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、ナイトハイク(金峰少年自然の家)

1日目の夜、金峰少年自然の家の周辺でグループごとにナイトハイクを行った。夜の森の雰囲気を味わうために、なるべく声をたてずに、静かに歩くように指導した。グループに指

導員1名が同行し、懐中電灯を1個持たせて出発させたが、普段の生活で明るく歩きやすい場所の経験しかないこともあり、コースから逸れてしまったグループもあった。宿舎まで辿り着くと、明るいというだけで子供たちは安心をしていた。

2、金峰山登山

鶴岡市の自然環境を体験させるために、金峰少年自然の家に隣接している金峰山登山を行った。急峻な斜面が多く、まとまって登ることが難しいため、班ごとに時間差をつけてスタートをした。天気が大変良く、庄内平野を一望できるだけでなく、山頂から日本海までを望むことができた。

<学習体験活動>

1、農業体験(鶴岡市の農業学習・農家での体験)

米所・庄内平野にある鶴岡市では、稲作はもちろんのこと、さまざまな農業体験や流通など、農業に関する学習を行うことができた。社会科「伊藤さんの米作り」の単元で取り上げられている場所も同じ庄内平野なので、学習したことがそのまま生かされ、現地の方々からは、「地元の子供たちよりも農業のことをよく知っている。」という言葉が聞かれた。

- ・鶴岡市の農業学習…農家民泊の前に全体で鶴岡市及び庄内地方の農業について学習した。まず、鶴岡市の農業全体の特色について説明を受け、米や柿の品種改良がどのように行われているのかを映像等で紹介していただいた。帰京してから、山形県が特に力を入れて品種改良をした「つや姫」というお米をいただいたこともあり、学習のつながりを意識できた。
- ・農家での体験…民泊する農家毎に、そこで行われている作業を体験した。米の収穫、サツモイモの収穫、生産直売所への農産物搬入、生花や海産物の出荷など多岐にわたった活動を体験していた。各農家で事前に準備を整えてくださり、天候が良くないなかではあったが、充実した活動をする事ができた。

2、体験学習

鶴岡の産業・伝統文化・歴史などについて体験を通して理解を深めるために、山伏修行体験、御殿まり作り、絵ろうそく作り、加茂水族館でのクラゲの学習会、致道館での論語の素読を行った。

- ・山伏修行体験…羽黒山で山伏修行を体験した。いでは文化記念館において、羽黒山の歴史、山伏修行の目的などの話を聞いた後、実際に羽黒山抖そう・壇張り・滝打ち・火渡りなどの修行を体験した。地元の方々でも実際に体験する機会の少ない活動であり、1日だけであったが、山伏修行の過酷さの一端に触れ、身の引き締まる思いをしていた。



【滝打ち体験をする子供たち】

- ・御殿まり作り…鶴岡市に伝わる伝統工芸の一つで、独特の長い針と特殊な編みこみをしていくため、家庭科の学習での「玉結び」や「玉止め」に慣れていた子供たちにとっても、とても難しいものであった。現地の先生方の手を借りながらではあったが、上手に完成させることができ、どの子も大事そうに持って帰っていた。



【熱心に講師の方から教わる子供たち】

- ・絵ろうそく作り…御殿まりと同様、鶴岡市の伝統工芸の一つであるが、日頃慣れ親しんでいる素材を使用することと自分の好きなデザインをすることができるところから、子供たちは熱心に作業を行っていた。丸いものに絵を描くことの難しさと、熟練した職人の技術の高さに驚いていた。



【絵つけに熱中する子供たち】

- ・加茂水族館見学…クラゲの展示や研究に関しては日本でも有数の加茂水族館では、クラゲの生態に関するレクチャーを受けた。クラゲが海になくはならない生物であること、様々なものに加工されて私たちの生活に溶け込んでいること、最先端の科学でも解明できない生態をもっていることなど、少し難しい内容ではあったが、実験や観察を交えながらのレクチャーで、子供たちは興味津々な面持ちであった。



【クラゲの生態に驚く子供たち】

- ・論語の素読体験…庄内論語といわれる、荻生徂徠の徂徠学に基づいた読み方での論語の素読を行った。今まで論語というものを知らなかった子供たちにとっては、書き下し文で読んでいても何のことかわからず、館長さんからの解説でようやく理解することができた。藩校であった致道館で正座をしての素読に、子供たちの顔に緊張が見られた。



【声をそろえて論語の素読をする子供たち】

<地域の人々とのふれあい>

1、農家民泊

児童は3～5人ずつ19のグループに分かれて、2泊3日、鶴岡市内の農家に民泊した。2

日目は、丸1日が農家での生活となったため、各農家での作業等をゆっくりと行うことができた。

様々な作物の収穫、トラクターの運転、直販所への出荷の手伝いといった農作業の他、家庭内の仕事も手伝っていた。農家の方々は、家族の一員のように子供たちに接してくださいました。学級担任が訪ねた際には、どの農家の方からも「今まで受け入れた子供たちの中でも一番です。」という言葉がいただけた。子供たちからも、「もう1日でもいいから泊まっていきたい。」といった声が聞かれた。



【稲刈り体験をする子供たち】



【まき割り体験をする子供たち】

○児童の感想

- ・自分で収穫した野菜を使って夕食を作りました。自分で収穫した野菜だと、とてもおいしく感じました。
- ・御殿まりを縫うのはむずかしくて、どこに糸を通していいのかわからなくなりました。でも、完成したら、とてもきれいでした。
- ・論語の素読は何のことかわからなかったけれど、昔の人はたいへんな勉強をしていたんだな、と思いました。

○保護者の感想

- ・武蔵野では体験できないことを、たくさん体験できて、とてもよかったと思います。特に農家の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・帰ってきた子供の顔を見て、「成長したな。」と感じました。この生活の中で学んできたことを、これからの学校生活の中で生かして行ってほしいです。
- ・セカンドスクールから帰ってきて、自分の身のまわりのことを少しずつやるようになりました。お手伝いも進んでしてくれ、とても助かっています。

○総合的な学習の時間との関連について

総合的な学習の時間（千川タイム）で高学年の児童が身に付ける力として、本校では以下の点に重点をおいている。

- ・自分なりの視点で課題を見つけ、追究していく。その中で、課題を多面的に見たり、別の課題に発展させたりして追究する姿勢を養う。
- ・伝えたい相手を意識し、自分が学んだことを、より分かりやすく自分の言葉で表現し、まとめる力を育てる。

「セカンドスクールに行こう」の学習では、体験から学べることを柱立てし、現地で体験したり、教えてもらったりしたことをもとに図や写真、文章などで説明していくことでまとめとする。そういった意味では、今回は全ての体験活動を全員が行うことができたため、体験を共有できたことが大きかった。

今後は、セカンドスクール中に、様々な人と出会う中での挨拶や礼儀作法といった基本的な行動のしかた、自然や命と人々の生活との関わりについて学んだことを、総合的な学習の時間だけでなく、他の教科・領域や学校生活全般に生かしていくよう指導したい。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

昨年度のプレセカンドスクールでは、2泊3日の宿泊を経験した。1か所にまとまったの宿泊ではあったが、ここでの生活は金峰少年自然の家の中で生かされた。また、課題に取り組み、まとめていく学習も、プレセカンドスクールでの経験が生かされ、グループで協力し、自分たちで学習を進めていくことができた。

また、一人一人が責任をもって係の仕事を行う形は、プレセカンドスクールで経験していたので、その体験が随所に生かされた。「自分たちの生活を自分たちで組み立てていく」という意識が育ってきていると思われる。

○次年度に向けての反省・課題

- ・昨年度からの変更点は次の3点である。①学年・学級レクリエーションを取りやめ、ナイトハイクや天体観測などの夜の活動を充実させたこと、②月山と手向宿坊街のオリエンテーリングを金峰山登山にしたこと、③選択型課題別学習であった「まち」「やま」「うみ」の活動を学年全員が体験するようにしたこと。いずれも、生活体験が不足していた子供たちにとっては有意義な活動になり、次年度も継続をしていく方向である。
- ・鶴岡市までは、三鷹から合計5時間半ほどかかってしまう。今年度は「豊かな体験活動推進事業」の事業費から、子供たちの荷物の運搬費が捻出されたが、大きな荷物をかかえての電車による移動は、児童にとって負担になるだけでなく、他の乗客にも迷惑となってしまう可能性がある。何年かかけて、別の体験場所を開拓していく必要があると同時に、次年度も公費もしくは私費負担での運搬が望ましいと考える。

井之頭小学校

9月29日～10月6日(7泊8日)

○日程表

9月29日(水)		9月30日(木)		10月1日(金)		10月2日(土)	
7:30	学校集合	9:00	郷土食作り	9:00	米作りの学習	9:00	わらざうり作り
7:40	出発式		(笹寿司)	10:00	稲刈り		
8:00	バス乗車、出発				はぜかけ		
12:00	戸狩到着、開校式			13:00	脱穀	12:00	餅つき体験
13:00	昼食 部屋割り	13:30	飯山についての学習		千歯こき	13:00	宿ごと体験
14:00	里山散策	15:00	戸狩丸ごと体験		足踏脱穀機		・巣箱作り
15:30	箸作り				コンバイン		・そばうち
				16:00	雪国のくらし学習	15:00	・作物の収穫
		19:00	暗闇体験				・しそジュース作り
						18:00	たき火体験
							バーベキュー

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・社会科の授業で「気候を生かした地域の暮らし」の学習において、飯山市戸狩地区の事や雪国の暮らしにふれ、現地に行った折の学習への意識付けを図った。また、長野県の位置や気候についても調べた。
- ・1学期の総合的な学習の時間に、社会科と関連させ、稲作についての学習を行った。田おこし、代かきをしてから学校の水田で田植えを行った。植えた苗は飯山から送っていただいたもので、セカンドスクールへの動機付けにもなった。セカンドスクールでは稲刈りをするので、実るまでの様子を学校で観察した。
- ・現地での課題別学習に向け課題を選択させ、インターネットや書籍での調べ学習を行った。課題は、戸狩の宿の方の専門分野を伺ったうえで設定した。内容は、①米、野菜作りについて、②生物(虫、小動物)について、③飯山の歴史について、④戸狩の草花について、⑤伝統産業、特産物について、⑥郷土料理についての6つである。
- ・9月には、宿の方へ自己紹介カードを送った。自分の目標や班の目標を決めて行く学習の中で自然とセカンドスクールに対する意欲が高まるようにした。

長野県飯山市

参加人数 男子32名 女子25名
計57名

10月3日(日)		10月4日(月)		10月5日(火)		10月6日(水)	
9:00	ブナの森の学習	9:00	カントリー	9:00	焼き板体験	8:00	掃除、荷物整理
9:30	茶屋池周遊 ブナの森ハイキング		エレベーター見学				
		10:00	和紙すき体験	11:00	課題別学習②	9:30	閉校式
14:30	課題別学習① ・米、野菜について ・生き物について ・飯山の歴史 ・伝統産業について ・郷土料理 ・戸狩の草花	12:00	棚田見学	13:00	宿ごと勤労体験 ・宿の掃除 ・農作業の手伝い	10:00	バス乗車 出発 各自、収穫
		13:30	各宿ごとスケッチ			15:00	学校着
				15:00	感謝の会の準備	15:30	解散
19:00	手紙書き			18:00	感謝の会		

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験を作文にまとめた。
- ・課題別学習班ごとに、事前に調べていったことや現地で学んだことをまとめ、互いに発表した。加えて来年度にセカンドスクールへ行く4年生にも発表した。
- ・学校の田で稲刈りをした。刈り取った稲を乾燥させた後、手作業で脱穀をし、家庭科の授業で精米を行った。田植えから、精米までの一連の作業を体験することで、米作りの過程やその大変さをより理解することができた。
- ・収穫した米を炊いて、おにぎりを作り、収穫祭を行った。
- ・お世話になった宿の方々に手紙を書き、感謝の気持ちを伝えた。後日来校していただき、久しぶりの交流ももてた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、茶屋池周遊ハイキング

ハイキングの中では、ブナに触れたり、木の実を拾ったりしながら、豊富な水を蓄えるブナの特色や、自然環境に果たす役割などについて肌で触れて直接的に学ぶことができた。な

ぜ、飯山のお米がおいしいのかということに対して、ブナの森が蓄えた豊富な水の果たす役割を知ることができた。森にいる生物、生息しているきのこ、植物などについても目の前で見たり触れたりしながら学習することができた。宿のお父さんがガイドとなって説明を加えてくださり、疑問がその場で解決されていった。整えられた道ではなく、自然のままの山道をハイキングすることで、自然と触れ合い、自然と生物との関わりを実感することができた。

2、暗闇体験

東京では体験できない、真っ暗な道や田んぼのあぜ道を歩く体験を行った。武蔵野の夜の暗さとは異なる圧倒されるような暗闇を体験することで、その深さや怖さを知ったり、逆に星空や月の美しさに深く感動したりすることができた。大自然を肌で体感し、畏敬の念を育む貴重な体験となった。高揚感を子供たち同士で共有し合えたため、帰宅後の宿での会話が一層充実したようである。

3、棚田の見学

棚田を見学し、自然の地形を生かした先人達の知恵を目の当たりにしたことで、自然との共生について考える貴重な機会となった。また、棚田や里山の景観の美しさに思いを馳せ、心豊かな感性を育む素晴らしい体験となった。

<学習体験活動>

1、農業体験(稲刈り・はぜかけ・脱穀ーわらぞうり作り)

作業の前に日本の稲作や農家の苦労などを話して頂き、米の大切さや稲刈りへの関心や意欲を高めることができた。民宿の方々の指導で、稲刈り・はぜかけ・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や体の動かし方を習い、勢いよく手前に引くように刈っていった。

はぜかけでは、稲穂の束ね方から習った。少しずつの分量でまとめて干すことで、湿気ることがなく、カビがはえないという先人の知恵を学んだ。

脱穀では、千歯扱・足踏脱穀機・コンバインの3種類の農具を体験することが出来た。千歯扱では、籾をより分けるために考えられた江戸時代の人々の知恵の深さに感心している児童が多かった。手前に引くと一気に籾が落ちる迫力にも感動していた。足踏脱穀機はさらに多くの量を手早く脱穀でき、農機具の発達や仕組みの工夫に驚く児童もいた。最後にコンバインでの脱穀の様子を目の当たりにし、手作業の大変さを実感できた学習であった。一方では、手作業で汗をかく素晴らしさや気持ちよさを感じる児童も大勢いた。

この農業体験は、今回のセカンドスクールの中心をなすものであり、他の活動との関連を図っている。主なものは、カントリーエレベーターの見学とわらぞうり作りである。カントリーエレベーターの見学を実施することで、稲刈り・はぜかけ・脱穀・もみすり・精米といった出荷までの一連の流れを捉えやすくした。わらぞうり作りでは、籾を落とされた穂を再利用し生活用品に生まれ変わらせるといふ、先人の知恵を体感することが出来た。また、帰宅後の国語の学習「わらぐつの中の神様」への動機づけや深い理解へとつながった。

主食である米を作るまでの手間の多さと、それによって生まれる副産物について、ともに学ぶことが出来た。

<生活体験活動>

1、郷土料理づくり

宿の方の指導で、「笹寿司」作りを行った。笹寿司の起源や工夫された食材、食べ方などについての話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味をもったようであった。また、乗せる具材を調理し作るところから始めたことで、達成感もあったのかおいしそうに食べている様子がみられた。

2、宿ごと体験

宿ごとの体験では、巣箱作り、そばうち体験、作物の収穫、しそジュース作りが行われた。巣箱作りでは、のこぎりやトンカチを使って作業を進めていた。そばうち体験ではそば粉をこねるところから始め、最終的には自分で打ったそばを食べた。作物の収穫では、収穫したコリンキーをくりぬき、オリジナルの灯籠を作った。しそジュース作りでは、しその葉の色が鮮やかに変化する様子に感動していた。どの宿も武蔵野では体験できない活動ばかりで、意欲をもってできただけでなく、自分で作り上げたという満足感を味わうことができた。

また、それぞれの宿ごとに焼き板工作も行った。焼き板工作では、焼いた板についた煤をきれいにはらうことで板に新たな風合いを出し、思い思いにデザインを付けていった。板をのこぎりで切ったり、たき火を起こして焼いたり、難しい作業にも関わらず自分で行っているのだという達成感を子供たち全員が感じていた。

7日目に、宿の方への感謝の気持ちをこめて、宿ごと勤労体験を行った。1日がかりの仕事が子供たちの手伝いによって数時間で終わり、宿の方にも感謝された。子供たちが一生懸命働く姿がたくさん見られた。

<宿の方とのふれあい>

1、課題別学習

課題別学習は、以下の6種類からの希望制で行った。

- ・米、野菜作りについて・・・戸狩でとれる米についての学習や、飯山で栽培される野菜、戸狩で主に生産される野菜についての学習を行った。
- ・飯山の歴史について・・・飯山城址に行ったり、がんぎの続く町並みを見学したりすることで飯山の歴史を学んだ。
- ・伝統工芸、特産について・・・飯山仏壇の見学や、飯山の特産物について学んだ。
- ・戸狩の草花について・・・周辺の散策をし、よく見られる花や植物について学習した。
- ・生き物ものについて・・・周辺を流れる川に行き、カニやカエルなどの生き物について実際に捕まえたり触ったりして学習した。
- ・郷土料理について・・・郷土料理について学び、おやきを実際に作って試食を行った。

2、地域についての学習(雪国の暮らし・飯山について)

「雪国の暮らしについて」の学習や「飯山について」の学習の講師を宿の方をお願いしたことで、実際に取り組まれている暮らしの工夫や生活の苦勞を直接学習することができた。また、実物を見せていただき、学習が具体的に深く進められていった。

○児童の感想

- ・一番の思い出は、ブナ林のハイキングです。ブナ林に行ったときはすごく自然を感じました。小さな木に小さなきのこが生えていました。ブナの木々も音を立てて不思議に感じました。
- ・宿ごと体験では、そば打ちを初めてやったのでとても楽しかったです。お父さんやお母さんがくわしく教えてくれたので、上手に作れました。おいしかったです。
- ・心に残ったことは、課題別学習です。いろいろな飯山仏壇がみられてよかったです。また、普段見られない職人技や金がはられた花などがたくさん見られました。
- ・わらぞうりを作って、初めは難しかったけれど、コツをつかんだら意外と簡単に上手くできました。はいてみたら、ピッタリでした。
- ・稲刈りがとても大変なことがよく分かりました。今は色々な機械があるけれど、昔はそんなものは無かったから、自分たちの手でやっていたことの大変さがよく分かりました。
- ・飯山は空気がおいしく、星空がきれいで、自然があることが一番の思い出です。戸狩スキー場のゲレンデからの景色は、11年間生きている中でもとてもきれいでした。
- ・セカンドスクールの一番の思い出は、みんなでお風呂に入ったり、寝たりしたことです。普段、友達とできないことなので、とても面白くて、毎日の夜が楽しみでした。

○保護者の感想

- ・帰宅後、食事の支度をしてくれるようになりました。また、食事の後には、当たり前のように食器を下げようになりました。
- ・お米一粒の大事さや人の温もりを感じられたようです。
- ・お手伝いを頼んでも嫌がることなくするようになりました。料理・片付け・洗濯など家事に対してやろうとする意欲が見られるようになりました。
- ・朝も早く起きられるようになりました。自分でできることは自分ですということを学んだようです。
- ・普段は学校のことをあまり話さない子ですがセカンド後はよく話をするようになりました。
- ・戸狩のお父さんお母さんに信頼を寄せて、また戸狩に行きたいと言っています。
- ・友達との付き合い方、責任感、友達を気遣う姿勢に成長が見られました。そこでの協力や我慢したこと、思いやりの気持ちなどは心の奥にしっかり刻まれたと思います。
- ・農家のくらしや自然豊かな土地で暮らす人々の様子を多く学んでようです。
- ・虫嫌いだったのに、部屋で見つけた小さなクモを騒がず手でそっとつかみ、外に逃がしてあげていました。大自然での経験の成果を感じます。

○総合的な学習の時間との関連について

総合的な学習の時間では、事前に課題別学習の下調べを行い、事後には学んだことをまとめ、発表会を行った。現地ではそれに関連させ、課題別学習をテーマごとに行い、事前

に調べたことの確認と新たに知り得たことの学習や経験を実践した。

○プレセカンドスクールの効果が見られた点

- ・長距離のバス移動ではあったが、体調を崩す児童も見られずに現地まで到着できた。
- ・1週間という長い期間の実施であったが、ホームシックが心配された児童もプレセカンドでの経験を活かして、楽しんで活動に取り組むことができた。
- ・多くは初めての体験活動が主だったが、順応が早く、主体的に取り組む姿が見られた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・宿ごと体験を共通の郷土食作りにし、「食」をより重視した活動にする。
- ・スケジュールの中には、お父さんたちの負担が大きい日もあったようなので、余裕をもって活動できるような工夫をした方がよい。
- ・今回、棚田見学の後、棚田のスケッチを予定していたが、雨天のためスケッチは各宿ごとで行った。その結果、各宿からのお気に入りの風景や場所をスケッチした見応えのある作品が仕上がり、よかった。棚田でのスケッチではなく、各宿ごとのスケッチでもいいのではないかと感じた。
- ・予定していたSAまでの時間が長く、予定外のトイレ休憩を行ったことから、バスの移動距離を考え、行き帰りのサービスエリアの検討をした方がいいと考えた。



【稲刈り】



【ブナの森ハイキング】



【宿ごと体験】



【わらざうり作り】

関前南小学校

10月1日～10月8日(7泊8日)

○日程表

10月1日(金)		10月2日(土)		10月3日(日)		10月4日(月)	
				6:00	起床健康チェック	6:00	起床健康チェック
		6:30	起床健康チェック	6:30	清掃	6:30	清掃
		7:00	清掃 朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	三鷹駅出発式	8:50	集合 出発	8:50	集合 出発	9:00	集合 出発
9:00	三鷹駅発	9:00	自然文化学校	9:00	自然文化学校	9:30	カントリーエレベーター見学
			○魚と遊ぼう		○魚と遊ぼう	10:30	米作り農家の伊藤さんの話
			○鳥海山の自然と遊ぼう		○鳥海山の自然と遊ぼう	11:00	昼食
			○わくわく農業		○わくわく農業	12:30	養豚業の後藤さんの話
10:12	東京駅発					13:30	梨選果場見学
						14:30	山居倉庫見学
15:01	遊佐駅着						
15:30	開校式	16:00	旅館・民宿着	16:00	旅館・民宿着	16:00	宿舎着
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	学習のまとめ 星空観察	19:00	お礼状書き	19:00	お礼状書き	19:00	お礼状書き
20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・ 4年生2学期・・・21年度の全校集会において、5年生(現6年生)のセカンドスクールに関する集会発表を聞き、次年度の活動に対する関心を高めた。
- ・ 5年生1学期・・・実施地の山形県遊佐町や庄内地方について調べ学習を行った。
- ・ 5年生2学期・・・課題追究活動のグループ作り及び計画、活動準備を行った。

山形県飽海郡遊佐町・酒田市

参加人数 男子30名 女子22名
計52名

10月5日（火）		10月6日（水）		10月7日（木）		10月8日（金）	
6:00	起床健康チェック	6:00	起床健康チェック			6:00	起床健康チェック
6:30	清掃 整理整頓	6:50	清掃 朝食	6:30	起床健康チェック	6:30	大掃除 荷造り
7:30	朝食						
		7:50	集合 出発	7:40	朝食	7:30	朝食
9:00	宿舎発	8:50	鳥海山登山（大平口）	8:50	うどん打ち体験	8:30	閉校式
9:30	課題追求活動			11:30	昼食	11:14	新庄発
	○ビーチコーミング			13:00	しらい自然館発		
	○鳥海山の湧水			13:30	牛渡川・丸池見学		
	○月光川の魚				現地発		
	○遊佐の文化						
	○西通川のざっこしめ						
15:30	宿舎着	16:30	現地発	15:30	しらい自然館着	14:56	東京駅着
16:00	学習のまとめ	17:20	しらい自然館着	16:00	学習のまとめ	15:50	三鷹駅着
17:00	入浴	17:30	入浴	17:00	入浴	16:00	解散式
18:00	夕食	18:20	夕食	18:00	夕食	16:20	解散
19:00	手紙書き	19:15	お礼状書き	19:00	お礼状書き		
20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック		
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯		

② 事後の学習内容

- ・ 5日目の課題追究活動で学んだことをまとめ、原稿を作り、報告する発表会を設定した。自分が選択していない課題についても発表を通して学ぶことができた。また、心に残ったことを短い文章でまとめ、学校だよりを通して地域の方や保護者に伝えた。
- ・ 社会科の「これからの食料生産と食生活」では、循環型農業にふれながら学習を進めた。児童も農家の方から実際に話を聞いているので、現在の日本の農業について考えながら学習し理解を深めることができた。
- ・ 国語科では「セカンドスクールの感動を書き表そう」と題し、セカンドスクールでの体験を通しての自身の成長や変化を振り返り、作文に表現することができた。
- ・ 現地での自然体験や発表会で交流して分かったことを書き出し、自然環境の相互関係について考えた。相関マップを作ることで、「山」・「川」・「海」・「魚」・「農業」に通ずるものは「水」

であることに気付き、考えを深めることができた。

○特色ある活動内容

<学習体験活動>

1、伊藤さんの話(稲作)

実際に数種類の稲穂を比べながら、幹の太さや背丈の違いが、米づくりをする上でどのように影響するかについて考えながら話を聞いた。「循環型農業」について詳しく説明をしてくださった。本楯地区の農家の方々は地区の特徴を生かそうと畜産団地の家畜から出る堆肥を使って品種改良を行った。

庄内の気候に合った品種を作り、育ててきたこと、米作りで何より大切なのは土作りであること、地域の農家全員がよりよい品質作りに努力しないとよい米は確保できないことなどの教科書にはない情報を通して児童は理解を深めていた。

2、後藤さんの話(稲作・養豚業)

伊藤さんと同じく社会科の教科書にのっている後藤さんに話を聞いた。循環型農業という農業全体の仕組みについての話や稲作・豚の糞尿と米のもみがら、わらを混ぜ合わせ乾燥させて作る完熟堆肥作りについての話を聞いた。子どもたちは実際に堆肥を手に取りながら話を聞き、全く臭いのしない堆肥に驚いていた。その後、子豚を抱かせていただいた。

3、カントリーエレベーター見学

教科書に載っているカントリーエレベーターの構造、働きを理解することができた。本楯地区の160の農家から運ばれた米(粳)を巨大な乾燥機で乾燥し、貯蔵されている。実際に粳を乾燥機に送るエレベーターを見て名前の由来がよくわかった。

4、農作業用機械見学

米作りで使う農作業用機械が収められている倉庫を見学した。コンバインを始めとする様々な大型機械を目の前にして、稲刈りのスケールの大きさを感じることができた。また、それぞれの機械の運転席に座らせてもらい、様々な操作箇所があることや視点の高さなどを実感することができた。また、一軒一軒の農家が別々に機械を所有するのではなく、共同で所有することによりコストの無駄を省くことができることなどについて理解を深めた。

5、山居倉庫見学

庄内で生産された米を集積し、各地へ配送するための施設である。明治26年に酒田米穀取り引き所の付属倉庫として建てられたのが始まりで現在でも使用されていると説明を受けた。品種改良を繰り返し、よりよい作柄を生み出すことに情熱を傾けた育苗家の思いや、米作りを心の生活を営んできた農家の苦勞を写真や模型などを通して学ぶことができた。女性の力持ちは五俵(300kg)の米を背負ったという説明に驚いていた。

<課題追究活動>

①「月光川の魚」

事前学習の時から学校で釣りのしかけの作り方を学び練習して、釣りに臨んだ。前日までの雨で増水し魚が釣れなかったため、急遽、内水面水産センターに行き、にじます、いわななどの養殖の様子を見学した。湧水を利用した施設の工夫や、成長によって変わるプール、採卵の

様子を見学や、実際に採卵体験をした。

②「遊佐の文化」

「遊佐で受け継がれている文化について調べる」という課題のもと、歴史民俗友の会の方から話を聞いたり、説明を聞きながら地域の神社の見学をしたりした。また語り部の館では、昔ながらの家の造りを見学したり、東京の家の中にはない「いろり」を囲み、かき餅を焼いて食べたりした。また、語り部の方にとんぴん語りと呼ばれるその土地の昔話や、方言についての説明を聞いた。

③「ビーチコーミング」

「遊佐の海岸にはどんなものが流れつくのか調べる」という課題のもと、漂着物の種類とそれらが及ぼす影響について調査した。海の生き物たちへの影響がやがては自分たちへ返ってくることや国内のごみの多さを知ることができた。

④「鳥海山の湧水」

「湧水の性質を調べる」という課題のもと、各所にある湧水について温度、p h、硬度、残留塩素を調査し、湧水の冷たさや混じりけのなさに驚いていた。また、湧水とミネラルウォーター、水道水などを飲み比べて硬度の違いを実感できた。秋田よりの鳥海山麓の獅子ヶ鼻湿原ハイキングに行った。そこには、湧水だけでできた池があり、酸性度の高い湧水を飲んだり、硬度、残留塩素を調査したりして湧水によっても違いがあることを学んだ。また昔、炭を作る材料に使われたことにより大きく変形しているあがりこ大王というブナの木を見学した。その後、鳥海マリモと呼ばれる巨大なコケ、ブナの実やドングリを見つけながら、児童は楽しく活動していた。

⑤「西通川のざっこしめ」

西遊佐小学校の6年生と一緒に西通川へ行き、ざっこしめを行った。胸まである胴長の着方を西遊佐小の児童に教えてもらいながら、川に入った。なかなか前に進まず悪戦苦闘していたが、講師の先生に歩き方や、魚の追い込み方を聞きながら取り組んだ。鯉、めだか、タモロコ、キタノアカヒレを捕った。その後、西遊佐小で講師の先生が貝の歩き方の特徴や、なまずのひげがなぜ4本なのか、メダカの体のつくり、これらの魚たちが生息するための川の環境保全についての話をしてくださり、児童は興味深く話を聞いていた。また、西遊佐小の児童と、お互いの土地や気候などを紹介し合うことで交流を深めることができた。

<自然体験活動>

1、遊佐自然文化学校活動

①「魚と遊ぼう」

ほとんどの児童が釣りは初めてという状態だったが、講師の先生の丁寧な指導のもと、しかけ作りとえさづけなどの準備を全て自分たちで行うことができた。イソメをちぎってえさにすることは初めての体験であった。クサブグ、アジ、クロダイなど19種類の魚が釣れた。児童は釣りの難しさを知り、釣れたときの達成感を得るとともに海からも自然の恵みを受けていることやそれらを育む自然環境の大切さを学ぶことができた。

②「鳥海山の自然と遊ぼう」

自然観察をしながら、一の滝、二の滝周辺を散策した。森の中でブナが果たす役割、葉の種

類などを分かりやすくご指導いただいた。また、小刀を使って箸を作った。児童は慣れない小刀に苦戦しながら、取り組んだ。

午後は1時間ほどかけて沢登りをした。裸足になり、体全体を使って大きな石を登った。児童は手の置き方や足の乗せ方、体の移動の仕方などを考え一つ一つ慎重に登った。疲れ果てながらも歩き通した自分への自信を深めていた。

③「わくわく農業」

午前中は無農薬野菜にこだわる農家の方の畑で、里芋や人参、ネギなどを収穫しその場で水で洗って食べた。その後は収穫したての野菜を使って、自分たちで芋煮を作り、おいしく食べた。午後は別の畑へ移動して長芋掘りの体験をした。砂地の畑から農家の方が育ててくださった長芋を丁寧に掘っていくうちに、体がすっぽり入る大きさの穴になった。最後まで折らずに掘り進めることは大変であったが、児童は「すごい達成感がある。」と砂まみれの顔で目を輝かせていた。

2、日向川鮭採捕場見学

児童は遡上してきた鮭や、採捕場の施設の様子を見学した。漁業組合長さんから、山形の鮭の栽培漁業の取り組みとその成果の話をうかがった。放した鮭が産卵のためにまた日向川に戻ってくるためには、川をきれいに保っておかなくてはいけないことや命のつながりについて、熱心に耳を傾けていた。

3、星空観察

1日目の夜、星空観察を行った。「遊佐町でも珍しいくらい晴れ渡り、星がよく見える夜空です。」と講師の先生の話にあったように、満天の星空だった。無数の星の中に、白く雲のように見えたのが天の川であると教えてくださった。空を見ている途中に何回も流れ星が流れ、子どもたちは歓声をあげていた。

4、鳥海山登山

小雨、濃霧であったが、4年ぶりに鳥海山登山をすることができた。長く続く石の道を滑らないように慎重に登った。登るうちに木々が少なくなり高山植物が増えてきた。空気が薄くなるを感じながら登った。途中で霧が晴れ、うっすらと見える鳥海湖や紅葉の美しさに児童から歓声があがった。

<地域の人々とのふれあい>

1、うどん打ち体験

うどんうちを通して、地域の人との交流や土地の食生活について学んだ。山形で昔から打ってきた方法でうどんを作る体験を通して、地元の方はさすがに手馴れていることや、粉と水だけでおいしいうどんができることに感動していた。



【粉をこねている様子】

2、民宿泊

遊佐町の旅館等への民宿泊では、前年度同様の温かな対応をしていただいた。各旅館で子どもたちは地元の話の聞いたり、三味線で唄ってもらったりと、地元の大人の方と交流することができた。

○児童の感想

- ・一番楽しかったこと、がんばったことは海づりです。竿が曲がるほどのメジナを釣りました。今年52名全員で行けたのでよかったです。
- ・一番心に残ったのは自然文化学校の農業体験です。長芋掘りでは夢中になって土だらけになりました。
- ・きれいな星空が見られて感動しました。講師の先生の説明が分かりやすく、初めて夏の大三角形や天の川がはっきり見えました。
- ・ごっこしめが思い出に残っています。川の底に泥がたまっていて歩くのが大変でしたが、ナマズを捕ることができました。また、西遊佐小の子と交流できて楽しかったです。
- ・自分一人ではできなくも仲間とやればできるということを学びました。自分も友達を助けられる時は助けたいと思います。

○保護者の感想

- ・長期間の宿泊でしたが、体調を崩すことなく元気に帰ってきた姿を見て安心しました。
- ・1か月以上たった今でも、家族の会話の中にセカンドスクールのことが話題に出るので、子どもにとっては、いつまでも色あせることなく鮮明に残っているのだと思いました。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・バケツ稲を育てることで、米作りの過程を体験した。規模は小さいものの芽出しから行う米作りをした。今年の猛暑の影響と水やりを怠ってしまったことで、稲が枯れてしまい、米作りの難しさを痛感した。また、農家の方の苦労についても考えることができた。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

- ・7泊8日という長い期間の実施であったが、プレセカンドの経験を活かして楽しんで活動に取り組むことができた。
- ・初めての体験活動ばかりであったが、順応が早く主体的に取り組む姿が見られた。
- ・共同生活で大切な場に応じた態度や挨拶をしっかりと行うことができた。

○次年度にむけての反省・課題

- ・課題別追究活動では、課題のもたせ方が難しかった。児童が自ら計画を立てて、現地での活動につなげるために、教員がより計画的に指導を行っていく必要がある。
- ・今年度は課題追究活動を5つに増やしたが、教員が4人だったため、1グループは指導員に担当させざるをえなかった。また、教員が5つの活動内容全てを掌握するのは難しかった。
- ・宿舎では毎日活動でお世話になった方へお礼の手紙を書いた。書いていくうちに慣れてきて文章力が向上した。反面、時間に追われ慌しく過ごしていた。精選が必要である。



【鳥海山登山の様子】



【吹浦港での海釣りの様子】

桜野小学校

9月25日～10月2日(7泊8日)

○日程表

9月25日(土)		9月26日(日)		9月27日(月)		9月28日(火)	
7:45	出発式	6:30	起床	6:30	起床・清掃	6:30	起床
9:24	東京駅発	6:45	朝の会	7:00	朝食	6:45	朝の会
11:30	昼食	7:00	清掃	8:10	宿舎出発	7:00	清掃
12:39	新庄駅着	7:30	朝食	8:50	登山口着	7:30	朝食
14:45	ビーチコミング*	8:50	宿舎出発	9:00	鳥海山登山	8:30	宿舎出発
16:00	海浜自然の家着	9:30	グループ別自然体験	12:00	昼食	9:00	箕輪鮭採捕場見学
	開校式		・魚と遊ぼう	16:30	登山口バス停着		牛渡川・丸池見学
18:00	夕食		・鳥海山の自然	17:30	宿舎着	12:00	昼食
19:00	入浴・学習のまとめ		・わくわく農業	18:00	夕食	13:00	シーサイト*ストラップ作り
20:00	係活動	16:30	宿舎着	19:00	入浴	17:00	入浴
20:30	健康観察	17:00	入浴		日記・学習のまとめ	18:00	夕食
21:00	消灯	18:00	夕食	20:00	係活動		日記・学習のまとめ
		19:00	日記・学習のまとめ	20:30	健康観察	20:00	係活動
		20:00	係活動	21:00	消灯	20:30	健康観察
		20:30	健康観察			21:00	消灯
		21:00	消灯				

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・社会科教科書の農業学習の単元では、庄内平野の稲作が取り上げられている。その中で生産者であり稲作について説明している執筆者にセカンドスクール期間中に会うことができることから、社会科の授業そのものを事前学習に位置づけることができた。

「庄内平野・遊佐町・酒田市の位置、自然環境について」

「米作りの実際、流通」

「循環型農業について」

- ・本校の「総合的な学習の時間(桜野タイム)」では、校内の田んぼでの米作り体験と調べ学習の二本立てが伝統となっており、現地での体験に関連させて取り組んだ。

☆米作り体験・・・田植えから稲刈りまで

☆調べ学習・・・米事典づくり＝「米」に関して興味のあることを調べる。

山形県飽海郡酒田市・遊佐町

参加人数 男子34名 女子35名
計69名

9月29日(水)		9月30日(木)		10月1日(金)		10月2日(土)	
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
6:45	朝の会	6:45	朝の会	6:45	朝の会	6:45	朝の会
7:00	清掃	7:00	清掃	7:00	清掃	7:30	朝食
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	8:00	大掃除
8:10	宿舎出発	8:50	宿舎出発	8:30	お別れ会準備	9:00	閉校式
9:00	稲作・養豚の学習	9:30	カントリーエレベーター見学	9:00	うどん作りの会	9:25	宿舎発
12:00	昼食	10:30	北平田倉庫見学	12:00	昼食(うどん)	10:39	酒田駅発
13:30	釜磯海岸見学	12:00	昼食	13:00	語り部・昔遊びの会	11:30	昼食
	カニ釣り	13:00	山居倉庫見学	16:00	お別れ会の準備	13:11	新潟駅発
16:30	宿舎着	14:30	精米センター見学	17:00	入浴・学習のまとめ	15:20	東京駅着
17:00	入浴	16:00	宿舎着	18:00	夕食	16:20	武蔵境駅着
18:00	夕食	16:30	入浴・お礼状書き	19:00	お別れ会	16:30	解散式
19:00	ボンファイヤー	18:00	夕食	20:00	係活動		
20:00	日記・学習のまとめ	20:00	係活動	20:30	健康観察		
20:30	健康観察	20:30	健康観察	21:00	消灯		
21:00	消灯	21:00	消灯				

- ・庄内地方の自然や鳥海山、文化、方言、米作り、鮭の溯上などについて各自で調べ、それをまとめたガイドブックを作成した。
- ・行動班での話し合いや、一緒に給食を食べるなどかかわり合いの活動を増やし、集団活動が円滑に進むようにした。

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの係・行動班ごとに、活動のまとめの話し合いをし、お世話になった方々に手紙を書く。
- ・「総合的な学習の時間(桜野タイム)」で、まとめとして「セカンドスクール新聞」を作る。
- ・体験してきたことをもとに、事前に行っていた「米事典をつくろう」の学習を継続する。
- ・米作りの延長として校内で刈ったイネの脱穀を行い、収穫した餅米で「もちつき大会」を実施する。

○特色ある活動内容

<自然体験学習>

1、ビーチコーミング・シーサイドストラップ作り

プレセカンドスクールでの体験を生かし、今回は日本海側でのビーチコーミングを行った。日本海を眺めながら吹浦港付近の海岸を歩き、貝殻や漂流物を採集した。また、4日目に雨天プログラムとしてシーサイドストラップ作りを行った。自分で採集したものを用い、海浜自然の家のスタッフにアドバイスをもらったり手伝ってもらったりしながらオリジナルの作品を作ることができた。

2、グループ別自然体験

遊佐自然文化学校スタッフによるグループ別自然体験活動。4つのコースに分かれ活動した。

「魚と遊ぼう」

吹浦港で魚釣り体験をした。簡易な釣竿をスタッフに用意していただき、餌のつけ方から釣り方まで教わって夕方まで飽きることなく釣り糸を垂らした。収穫は、フグ、メバル、アイナメなどたくさんの種類の魚を例年になくたくさんとることができた。

「鳥海山の自然A・B」

鳥海山登山のスペシャリストの案内で、湧き水を田に送り込むために昔の人が作った川沿いを歩き、湧き水を味わったり植物のことを聞いたりしながら、自然のダイナミックさを感じることができた。午後は、雨水の自然の川を沢登りし、水温や水量など湧き水の川との違いを体で知ることができた。また、最後に箸作りをした。

「わくわく農業」

砂丘での有機野菜栽培の様子を、郷土料理「いも煮」の材料野菜の採り入れを通して味わいながら学んだ。とりたての新鮮な野菜をそのまま食べ、その甘さに驚いていた。砂丘での農業の苦労や工夫は何かなど農家の人から多くのことを聞きながら、楽しいひとときをもつことができた。午後は、掘ったばかりのサツマイモを焼き芋にさせていただき、焼き上がるまで小高い丘の上からの景色を楽しみ、日本海と庄内平野、砂丘の位置を確認できた。

3、鳥海山登山

眼下に広がる雄大な景色を楽しみながら、一步一步目的地を目指した。途中スタッフの方に、木や草の話聞きながら、登山を楽しんだ。標高が上がるにつれ、変わってくる植生や、雲の切れ間から見た広大な庄内平野、そしてキラキラ輝く日本海に皆感動した。また、昼食後には山特有の強風に吹かれながら昔の噴火口である鳥海湖を見下ろし、自然の不思議、美しさ、厳しさを一度に体感することができた。下山も着実な歩みで、けがをすする子もせず、全員無事に降りることができた。



【鳥海山登山】

4、鮭採捕場見学

鳥海山から湧き出た牛渡川に遡上する鮭の様子を見学する予定だったが、今年はまだ時期が早く、また天候にも恵まれず、鮭の姿を見ることはできなかった。しかし、鮭の生涯や採捕場での仕事についてお話を伺ったり、広い作業場の見学をしたりすることで、どのように鮭を捕り、採卵・受精してまた川に戻すかといったことを学習することができた。

また、鮭加工工場において、すり身ボール作りと切り身の炭火焼き体験をして昼食のおかずとしていただいた。「命をいただく」ということを実感する場面となった。

5、湧き水体験

鳥海山より湧き出でる水を、様々な場所で様々な形で見ることができた。

「牛渡川・丸池」

大きな杉木立の中の丸池は澄んだエメラルドグリーンで、底には倒れて沈みこんだ樹木がそのまま見える。地元の信仰の対象にもなっている幻想的、神秘的な雰囲気を味わった。

「釜磯海岸の伏流水」

波打ち際の砂の中から湧水が出ている。鳥海山に降った雨が200年もかかって湧いてきた水であり、海岸にありながら塩水ではない。湧き出す水の冷たさに驚いたり、砂の中に手を入れてどこまでも手が入っていく不思議を感じたりと、全身を使って自然にふれあい、感動する体験ができた。

6、磯活動(カニ釣り)

日本海の荒波を間近に見ながら、岩に囲まれた磯での活動となった。割り箸にタコ糸、そこにすめをつけた簡単な道具を持ち、カニが来るのをじっと待つ。潮の満ち引きや波の入ってくる様子をうかがいながら楽しそうに活動する様子が見られ、たくさんのカニが釣れた。

<学習体験活動>

1、稲作・養豚の話(本楯地区の農業)

社会科教科書で取り上げられている本楯地区に実際に行き、教科書に紹介されている伊藤千春さんと後藤悟さんから直接お話を伺える貴重な活動である。教室で学んだことを知識理解にとどまらず、実際に体感することで、より関心と理解が深まった。今年も、稲の生育・品種、自然を大切にしておいしくおいしい米を作りたいという願い、農業の危機と言われる状況の中での米作りにかかる思い等について伺うことができた。循環型農業の先駆となっている本楯地区での人のネットワークとそれを支える情熱にふれ、教科書では学べないことを直に体験し学んだ。養豚場では赤ちゃん豚を抱かせていただき、子どもたちに満面の笑みがこぼれた。

2、米関連施設の見学

日本有数の穀倉地帯である庄内平野の米作りについて栽培から収穫、保管、発送までの様子を2日間にわたり体験・見学・聞き書きをすることができた。

「米入庫作業見学」(カントリーエレベーター・北平田倉庫)

本楯カントリーエレベーターでは、軽トラックで米が運ばれ入庫するまでの様子や保管の様子を見学し、説明を受けることができた。北平田倉庫では、棒を刺しての検米を体験させていただき、等級の違いや、入庫作業の実際を見学した。検米作業では、米袋から米の取り出し、シールはり等ひとつひとつの作業を子どもたち自身がやることができ、働いている方の苦労や

努力にもふれることができた。

「山居倉庫」

昔から庄内地方の米の集積場所で、山型屋根の倉庫が連なっている。大きなけやき並木で真夏の西日や強風を防いでいること、二重屋根で温度管理を工夫していたことなどを学んだ。隣の歴史資料館では、米作りの変遷や流通の様子を学ぶことができた。

「庄内みどり精米センター」

庄内米の中核センターとしての働きをしている場所。全国各地からの注文に応じて精米したり、ブレンド米を作ったりしている。ビデオを視聴し、精米の様子をガラス越しに見学した。

3、コンバイン刈り取り作業体験

米の刈り取り作業最盛期にあたり、いたる所でコンバインによる刈り取り作業が見られた。子どもたちも実際にコンバインに乗らせてもらい、簡単に操作の方法を教わりながら刈り取り作業を行うことができた。広い田をあっという間に米を刈って進むコンバインに驚いていた。



【コンバインに乗って稲刈り体験】

<生活体験学習>

1、うどん作り

海浜自然の家のスタッフの方に教えていただきながら、地域の方と一緒にうどん作りを行った。太さや硬さはいろいろだったが、班の友達と力を合わせ自分たちで作ったうどんはやはりとてもおいしかった。

2、集団生活

学年全員が同じ宿舎で生活し、毎日の生活リズムを崩さないよう配慮することで、ルールやマナーの意味、友だちとのかかわりなどを学校生活以上に深くとらえ、考えさせることができた。とくに、あいさつや清掃、食事のマナーなど、日ごと定着していく様子を確認することができた。

<地域の人々とのふれ合い>

1、語り部・昔遊びの会

午前中のうどん作りに引き続き、各班一名ずつ地域の方が入り、お手玉やあや取り、缶ぽっくりや紙でっぼうなど昔遊びを教えてください、語り部の方は昔話を語ってください。最後は、代表の語り部の方に昔話を語ってもらい、地域の方々と触れ合いながらゆったりした時間を過ごすことができた。



【語り部の会】

○児童の感想

- ・鳥海山登山では風が強くとっても寒かったです。下山のときは、霧の中から鳥海湖が出てきたのが感動的でした。

- ・一番楽しかったのはわくわく農業です。ピーマンは苦くなく、みずみずしかったです。ピーマンが苦くないのにはびっくりしました。自分達で作った芋煮はとてもおいしかったです。
- ・係会議ではいくつかの問題を食事係で解決しました。私は普段あまり人の前でしゃべらないのですが、係会議では数え切れないほど発言できました。
- ・家を離れて一週間過ごすのは少し不安だったけど、友だちと一緒に過ごせることを考えたら楽しみでもありました。
- ・勉強だけじゃなくて、一緒に部屋で生活したり行動班で行動したりして、みんなで協力するという力も身に付いたのではないかなと思います。
- ・班長、副班長が言わなくても一人一人が行動できるようになりました。最初は自分のことで精一杯で、副班長の役目ができなかったけど、それもできるようになりました。

○保護者の感想

- ・病気やけがもなく、無事に帰ってきてくれたことが一番でしたが、一週間本当に多くの経験をし、一回り大きくなって帰ってきたなあと思います。
- ・農業体験や登山などの集団生活の中で大変なこと、がまんしなければならないこと、協力し合うことなど多くを学んできたのだろうなあと思います。
- ・親としてももう一度生活を振り返り、少し気持ちを引き締めて子どもとかかわっていきたいと思います。

○総合的な学習の時間との関連について

本校では、学校行事としてカウントしている時間を除き、現地での活動時間をすべて「総合的な学習の時間(桜野タイム)」としている。これは庄内平野での様々な体験、活動がまさに「総合」そのものであるという考えに基づいている。また、米どころ庄内での活動は、5年生が年間を通して取り組んでいる米を題材としての総合的な学習の時間「桜野タイム」の学習活動とぴったりと合致している。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

- ・プレセカンドスクールでその土地に合った体験活動を経験することで期待感が高まり、セカンドスクールでの人とのふれ合いに対して意欲的にかかわることができた。
- ・プレセカンドスクールでの集団生活の経験が自信となり、スムーズに7泊の宿泊生活を送ることができた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・現地ならではの活動を吟味し、学習活動がさらに充実するよう現地と調整しながら計画を立てていきたい。